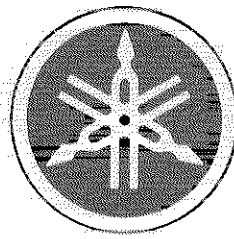


YAMAHA



ELECTONE

D-7

Playing Guide エレクトーンの手引

## 目 次

ヤマハエレクトーンD-7	P. 2
ヤマハエレクトーンD-7の〈各部説明・使用法〉	P. 5
トーンレバー・エフェクトレバーの名称	P. 6
タブレット・レバー・つまみの名称	P. 7
タッチピブレードについて	P. 12
プリセットについて	P. 13
カブラーについて	P. 15
トレモロについて	P. 16
パーカッションについて	P. 18
ヤマハエレクトーンD-7の音域表	P. 20
ヤマハエレクトーンD-7型の仕様	P. 21
ヤマハエレクトーンD-7の構成	P. 22
ヤマハエレクトーンD-7の保存法	P. 27
ヤマハエレクトーンD-7の調整法	P. 28
ヤマハエレクトーンD-7のヒューズ交換	P. 30
こんな場合は故障ではありません	P. 31
ヤマハの保証とサービスシステム	P. 33
ヤマハエレクトーンD-7の記譜法	P. 34
附属品のご案内	P. 40

# ヤマハエレクトーンD-7



## 〈ヤマハエレクトーン〉

ヤマハエレクトーンは、無限の可能性を秘めた新しい時代の楽器です。いまやクラシック音楽からポピュラー音楽まで老若男女を問わずあらゆる人々に愛好されています。

それは、エレクトーン独特の素晴らしいソロ演奏と思わず息をのむ程、多彩で表情豊かなエフェクトによる見事なオーケストレーションの醍醐味が味えるからです。

このヤマハエレクトーンD-7は、意欲的な音楽家の注目の的であったD-2B型を更に専門家のものとして高度な音楽の要求に応えるために従来から電子オルガンの夢であった鍵盤タッチによる曲想の微妙な表現をタッチビブラート機構により可能としています。

加えてプリセット装置を内蔵いたしております。演奏者があらかじめ曲想に応じた音色に、プリセット・レバーを操作しておき、演奏途中プリセット・ボタンを押すだけで、早い曲想の変化にも瞬時に応えることができるのです。

スムーズに変化のある、効果的な演奏が可能となった訳です。更にD-7には、すでにご好評いただいております。。ヤマハ・ナチュラル・サウンド・スピーカー2個を内蔵し、その迫力と音の美しさは、従来のスピーカーではまったく創造できなかった音の世界をくり広げます。

あなたの指先を鍵盤の上にそっと乗せてごらん下さい。ヤマハエレクトーン〈D-7〉は、素晴らしいファンタジックな音と音楽の世界へあなたをお招きいたします。

## エレクトーンD-7の特長

### 1. プリセット

プリセットパネルとプリセットボタンの操作により、スムーズでユニークな演奏が可能となり、演奏家の素晴らしい表現力が発揮できます。

(参照：プリセットについて)

### 2. タッチビブラート

タッチビブラートレバーの操作と、フィンガーテクニックにより生きたビブラートがかかり、演奏家の曲想豊かでデリケートな演奏ができます。

(参照：タッチビブラート)

### 3. パーカッション

11種類のパーカッションが組み込まれ、表現豊かな演奏が楽しめます。

(参照：パーカッションについて)

### 4. トーンレバー

上鍵盤のキヌラ8'、チャイムはユニークな、演奏を可能にしフルート2'は音の巾を一層豊かにいたします。

### 5. スピーカー

ヤマハが開発した多次元共鳴システム、ナチュラル・サウンド・スピーカーを採用。低音が豊かで厚みがあり、音に拡がりがあります。とくに中音から高音にかけてムラがなく、まろやかな音です。

### 6. トレモロ

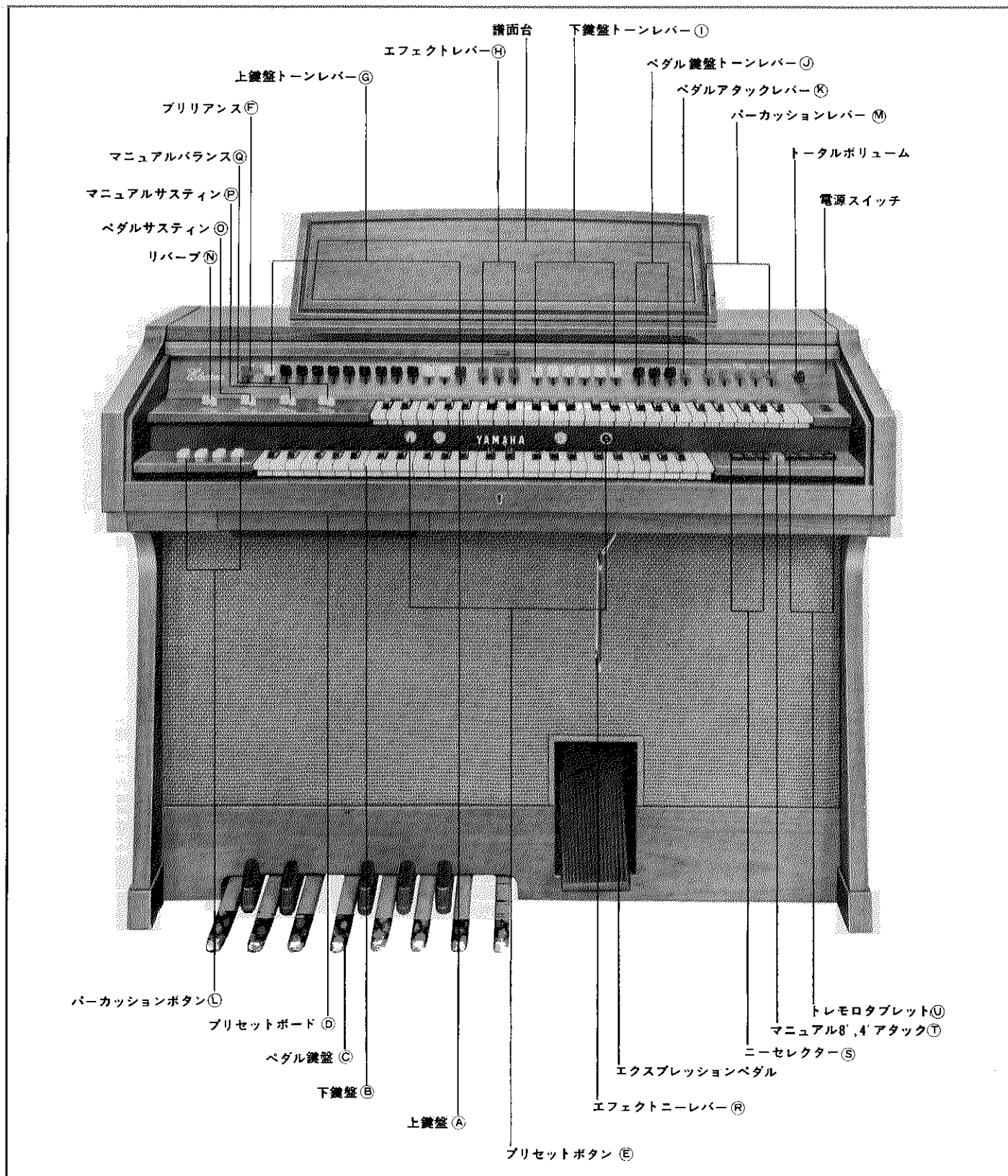
特殊設計のナチュラル・サウンド・スピーカーを採用した回転スピーカーがとりつけられ、一段とその効果に変化が生まれました。回転スピーカーの効果は、2段切換えになって美しい広がりのあるトレモロ独特の効果と壮重なコーラス効果が得られます。

### 7. タブレット

アッパーボイス、ローボイスタブレットによりメロディーとハーモニーが分離したトレモロ効果が可能になり、演奏が一段と変化に富んでまいります。またアッパープリセット・ツウ・パネル・タブレットは、ニーレバーの操作によりプリセットレバーの効果を瞬時にトーンレバーパネルの効果に戻す働きがあります。

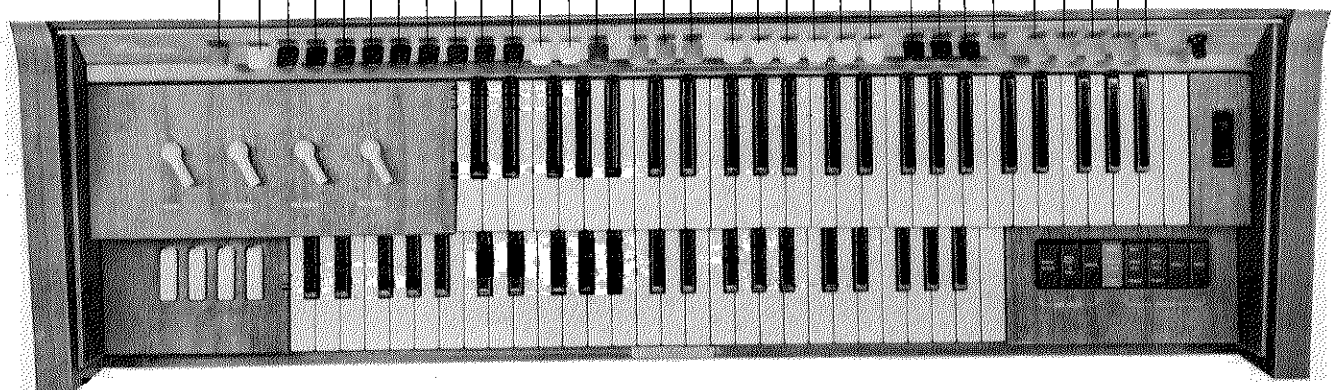
# ヤマハエレクトーンD-7の 〈各部説明・使用法〉

## 各部名称

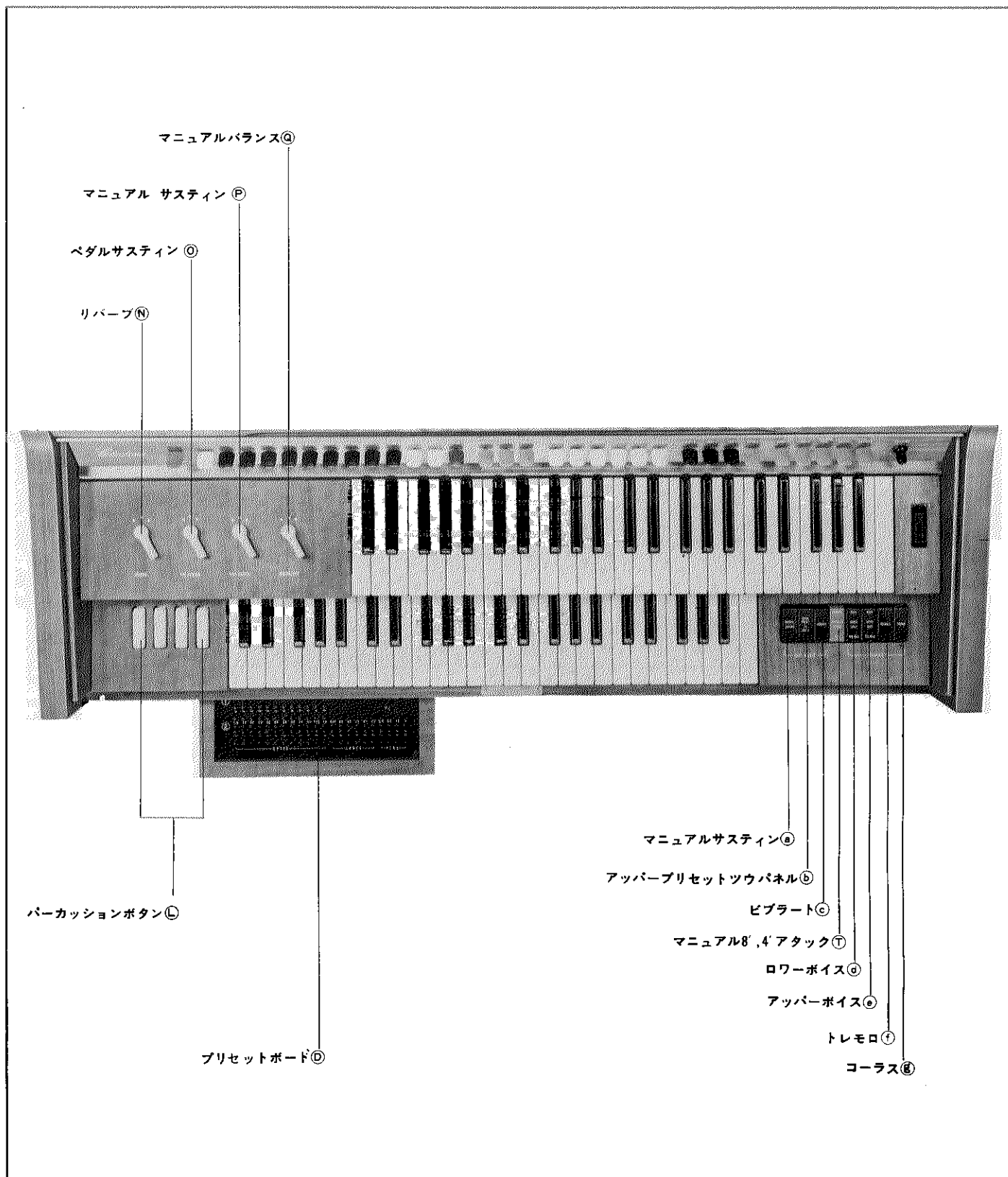


# トーンレバー・エフェクトレバーの名称

- ① プリリアンス
- ② フルート16'
- ③ フルート8'
- ④ オルガン8'
- ⑤ クラリネット8'
- ⑥ プラス8'
- ⑦ オーボエ8'
- ⑧ キヌラ8'
- ⑨ ストリング8'
- ⑩ フルート4'
- ⑪ ストリング4'
- ⑫ フルート2 3/4'
- ⑬ フルート2'
- ⑭ チャイム
- ⑮ マンドリン
- ⑯ タッチビブラート
- ⑰ ビブラート
- ⑱ ウッド16'
- ⑲ ウッド8'
- ⑳ ホルン8'
- ㉑ チェロ8'
- ㉒ ウッド4'
- ㉓ チェロ4'
- ㉔ バス16'
- ㉕ バス8'
- ㉖ チューバ8'
- ㉗ アタック
- ㉘ ローIパーカッション
- ㉙ ローIIパーカッション
- ㉚ ペダルパーカッション
- ㉛ ボタンIパーカッション
- ㉜ ボタンIIパーカッション



## タブレット・レバー・つまみの名称





## 鍵盤(A)(B)(C)

上鍵盤(A) (Upper manual = U M)

49鍵 4 オクターブ(c~c<sub>4</sub>)

下鍵盤(B) (Lower manual = L M)

49鍵 4 オクターブ(C~c<sub>3</sub>)

ペダル鍵盤(C) (Pedal)

13鍵 1 オクターブ(C<sub>1</sub>~C)

以上3つの鍵盤がメロディとリズムとハーモニーをつくります。

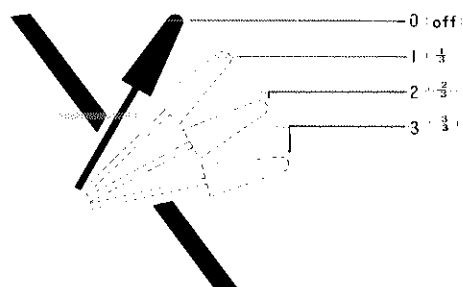
## トーンレバー(G)(I)(J)

これはエレクトーンの音色を決めるレバーで各レバーの音色の音量を連続可変調整することができます。

指先で押し下げて行くにつれ、音量は増大して行きます。途中2ヶ所でちょっと手ごたえがありますがこれは、わかり易いようにクリックストップになっているためです。

トーンレバーは白色、黒色と緑色(チャイムのみ)に統一され、白色のトーンレバーは、エフェクトのサステイン効果がかからないことを意味しています。

記譜上レバーの位置は下図のように4段階(0,1,2,3)に分けて記します。



- トーンレバーを上げたままの位置を0。
- 1つ目のクリック・ストップまで下げた位置を1。
- 2つ目のクリック・ストップまで下げた位置を2。
- いちばん下まで下げた位置を3。

### <上鍵盤のトーンレバー>

#### フルート16'②

フルートの音は、柔らかく澄んだ音で、他の音色とのハーモニーがきれいです。

フルート16'のトーンレバーを押し下げると1オクターブ下のフルートの音加わります。低い音ですから、厚みができますが、強すぎたり、また単独で使ったりすると、基音がオクターブ下がったようになってしまいます。

その意味で使えば、上鍵盤の音域が下にオクターブひろがったと考えてもいいわけです。このように音域を

ひろげることも出来ますが、又これを強調して特殊な効果としても使えます。

これはカブラーの使い方の一つですが、全てのカブラーについてもいえます。

#### フルート8'③

フルートは本来開管の管楽器ですが基音が強く、倍音が少ししかありません。従って単純ですが、少し暗い感じの音がします。

#### フルート4'⑩

フルート音でオクターブ上の音が出ます。これを加えると音は生き生き

してきます。8'を弱くしたり、或いはこの音を単独で用いれば音域を上

#### フルート2 $\frac{3}{4}$ '⑫

フルートの音でオクターブ5度上の音が出ます。これを加えると音の豊かさが一段とまし、多彩な表現が生まれます。

#### フルート2'⑬

フルートの音で2オクターブ高い音

#### オルガン 8' ④

音量感があり、しかも丸味のあるフルートとクラリネットをミックスしたような音で、バッハのフーガなどの演奏には効果的です。

#### クラリネット 8' ⑤

丸味をおびて、しかも倍音がうまく配合された音です。他のトーンレバーとは少し違った感じの音で、やや複雑な表情が表現出来ます。

#### ブラス 8' ⑥

金管楽器の音です。この音は高い倍音までたくさん含んでいるので、より複雑な鋭い感じの音になります。明るい音です。

#### オーボエ 8' ⑦

ダブルリードの楽器で基音よりずっと強い倍音を持っているのが特長。従って演奏に味つけの効果があり、ストリング群などに加えると大変クリアーな効果があらわれてきます。

#### キヌラ 8' ⑧

フルート16'との組み合わせで低音部演奏にビートを効かせます。中型パイプオルガン以上についており、音色にコミックな華やかさを加えます。

#### ストリング 8' ⑨

弦楽器の音は、ずっと高い倍音まで豊富にふくまれています。そのため複雑で豊かな音色になります。この

トーンレバーの音も、そうした弦楽器の特長を、はっきりとあらわしています。

#### ストリング 4' ⑩

ストリングの音でオクターブ上の音が出ます。音色が違うだけで他の4フィートと同じ音域を持っています。

#### チャイム ⑭ (c<sub>1</sub>~c<sub>3</sub>)

このレバー1つを使用することによって、美しいチャイムの音が得られます。

(注) チャイムレバーが入っている場合、他のトーンレバーの効果はかかりません。

#### <下鍵盤のトーンレバー>

#### ウッド 16' ⑰

ウッドの音でオクターブ下の音です。下鍵盤の音に厚みを加え、音域を低い方に広げます。

#### ウッド 8' ⑱

木管楽器の音です。フルートと同じような単純な音ですがいくらか倍音が入って明るい感じになっています。

#### ウッド 4' ⑳

ウッドの音でオクターブ上の音。特に低音部でメロディを弾くとき、この音を加えると音がはっきりします。下鍵盤の音域を拡げるのにも使えます。

#### ホルン 8' ㉑

ホルンの音には、特に強調された倍音はありません。しかし一定の比例で弱まりながらもずっと高い倍音までが含まれているという特長があります。そのためくせのない豊かな音になっています。

#### チェロ 8' ㉒

ホルンにくらべてやや倍音が強調され、やわらかく自然なチェロのような音色です。

#### チェロ 4' ㉓

チェロの音でオクターブ上の音が出ます。

#### <ペダル鍵盤のトーンレバー>

#### バス 16' ㉔

基音が強く、倍音が少ない音ですが、非常に低いバスの音域で使われるため、音程がはっきりしません。

#### バス 8' ㉕

バスの音でオクターブ上の音です。これを加えると、ペダル鍵盤の音は音程が聴きとりやすくなりペダル鍵盤のメロディ演奏に効果的です。

#### チューバ 8' ㉖

バスより倍音が強調されています。

## エフェクトについて

エレクトーンの音にいろいろな効果例えば一定の周期で音量を変化させマンドリンに似た音を生んだり、曲想に応じて、音色を暗い感じにしたり明るい感じにしたり……など、音色に潤いと変化を与え、音に一層の拡がりを持たせ、演奏の巾を大きく広げる効果をエフェクトといいます。

### 〈エフェクトレバー〉

#### ブリリアンス ①

このレバーは音色全体をやわらかな感じにしたり、きらびやかな明るい感じにしたりする時に使われます。レバーをOFFの状態にすると、やわらかな暗い感じが加わります。バイオリンに弱音器をつけた感じ、曲で言いますとチゴイネルワイゼンなどに適します。またフルートを遠くで弱く吹いている感じにもなります。逆にレバーをONの状態にしますときらびやかな明るい感じが加わります。8'の音に加えて、4'以上の音を入れた時の和音奏法、単音奏法で、上鍵盤の音にきらびやかな明るい感じを加えることができます。

#### マンドリン ⑫

コントロールパネルの中央に3つ並

んだ赤いレバーうち左のレバーがマンドリンレバーです。

このレバーを入れると上鍵盤の音がこまかく継続するようになりマンドリンの奏法に似た効果が得られます。(マンドリン効果回路の項参照)

#### ビブラート ⑰

コントロールパネルの中央に3つ並んだ赤いレバーのうち右のレバーがビブラートレバーです。このレバーを入れると全鍵盤に震えを与えビブラート効果が得られます。

ビブラートの深さ(かかり具合)は、ビブラートレバーの位置で調整できます。

#### ペダルアタック ⑳

これはペダル鍵盤の音の立ち上がりにはアクセントをつけるもので、これを使用することにより、弦バスのピチカート奏法の効果を得ることができます。リズム的な演奏に、特に効果を発揮します。

#### パーカッション ㉓

11種類のパーカッションが組み込まれ、多彩な演奏が楽しめます。

コンガ、ボンゴ、クラベス、シンバル、トライアングルという打楽器音や、下鍵盤、ペダル鍵盤と同時に連動パーカッションが得られ、演奏の巾は一段と大きく拡がります。

(パーカッションの項参照)

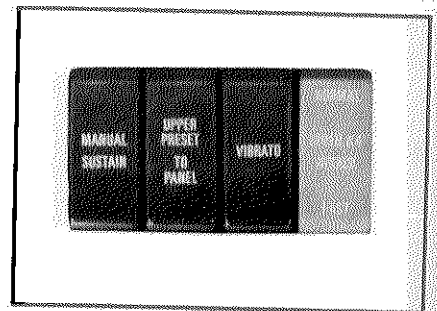
### 〈エフェクトニーレバーコントロール〉

鍵盤の下側、ちょうど右ヒザの上の位置に金属のレバー<sup>®</sup>エフェクトニーレバーがたたみこまれています。これを下側に引き起こしてください。このレバーはニーセレクターと組み合わせて使いますので単独では働きません。

曲の途中でも、簡単に右ヒザで操作出来ますから非常に便利で、表現力が拡がります。

### 〈ニーセレクター〉

下鍵盤右拍子木にあるタブレットのうち左側より3組<sup>Ⓐ</sup> <sup>Ⓑ</sup> <sup>Ⓒ</sup>のタブレットは、ニーセレクターと呼ばれるタブレットです。その3つの効果「サステイン」「アッパープリセット・ツウ・パネル」「ビブラート」の各々を組合わせて、エフェクトニーレバーコントロールに直結する役目をします。



#### ビブラート ㉔

ビブラートのタブレットをONにしニーレバーコントロールを操作しますとビブラートの速さと深さ(かかり具合)が同時に変化します。つまりニーレバーの操作(ニーレバーを右にヒザで押す割合)が浅いときは、

ビブラートの速さは遅く(3Hz)深さも浅いわけですが操作を深くするに従って速さは速く(8Hz)深さも深くなります。この場合、トーンレバーパネルの赤色レバーのビブラートは効かなくなります。

### アップープリセット・ツウ・パネル ㉔

このタブレットは後記「プリセットについて」の項にある様に、プリセットによる演奏途中、タブレットをONにし、ニーレバーの操作によって、一時的にプリセット状態から、トーンレバーパネルのトーンレバー効果に切り換える事ができる働きをします。又、ニーレバーを戻すと、プリセットのトーンレバー効果に戻ります。演奏家のユニークでスムーズな演奏が一層可能になった訳です。(但し、これはプリセットパネルとトーンレバーパネルの上鍵盤レバーについてのみ効果が発揮されます。)

### サスティン ㉕

エレクトーンでは、普通キーを押した瞬間に音が出て、離れた瞬間にプツリと切れてしまいます。ところが、実際の楽器、特にピアノではダンパーペダルを踏んでいればキーを離れた後も音が自然に減衰して行きます。こうした効果を出すのがサスティンです。

上鍵盤左拍子木のマニュアル・サスティンレバー及び下鍵盤右拍子木のサスティンタブレットを入れて、ニ

ーレバーを操作すると、上鍵盤の黒色のトーンレバーの音色のみにサスティンがかかります。サスティンの長さ(減衰時間)は、このマニュアルサスティンレバーの調整で長くも短かくもできます。右で最も長く、左で最も短くなります。サスティンが必要でない時には、サスティンタブレットがONでも、エフェクトニーレバーコントロールを作動しなければサスティンは、かかりません。またサスティンをかけようとしてエフェクトニーレバーコントロールを右に押ししてもサスティンタブレットがONの状態でもマニュアルサスティンレバーを任意の長さにセットしなければやはりサスティンはかかりません。

ペダル鍵盤のサスティンは、上鍵盤左拍子木のペダルサスティンレバーを調整することにより、サスティンをかけたり切ったりし、また減衰時間を選ぶことができます。

エレクトーンD-7では、サスティンは黒色のトーンレバー、すなわち上鍵盤で4'と8'ペダル鍵盤ではすべての音にかかります。

### 〈トレモロ〉

下鍵盤右拍子木にある8組のタブレットのうち、右の4つ㉖㉗㉘㉙が、トレモロ用のタブレットです。

(トレモロについての項参照)

### 〈リバーブ ㉚〉

上鍵盤左拍子木にあるレバーの内、

左端のレバー㉚です。これにより、大ホールで演奏している様な残響が得られます。又このレバーは、連続可変になっていますので、残響のかけ方を強くしたり弱くしたり自由に調節出来ます。

### 〈マニュアル8' 4' アタック ㉛〉

下鍵盤右拍子木にある赤色タブレット㉛をONの状態にしますと上、下、鍵盤の8'と4'の音色にアタックがかかり、音の歯切れが良くなります。これまで、とかくサスティンのかかる音色の欠点であった音の立ち上がり下がりの甘さが、これをかけることにより解消され、音の立ち上がり下がりに鋭さを加えます。

### 〈 balancer ㉜〉

上鍵盤左の拍子木にある4組のレバーのうち、いちばん右のレバーがマニュアル balancer です。これは上鍵盤と下鍵盤の音のバランスをとるためのもので、ふつうは中央位置にしておきます。しかし、上鍵盤がメロディをとり、下鍵盤が伴奏の役を果しているときなど、メロディをもっと引き立たせるためには、このレバーを右にまわしてバランスをとります。逆に下鍵盤の音が弱すぎるときは、左にまわします。

# タッチビブラートについて

楽器は本来、人間が歌う喜びを、それに託して作りあげたものであると言われます。エレクトーン自体も、各種楽器の音色から、エレクトーン独自の音色、又それらの音色の組合せにより、表現力は多岐にわたっていますが、ただ、鍵盤楽器では得られない“鍵盤タッチによる豊かな表現の変化、即ち、生きたビブラート”をエレクトーンで得たいという夢を、永年持ちつづけてきました。この夢をみごとに実現し、音楽家を驚かせたのが、D-7独自のタッチビブラートなのです。

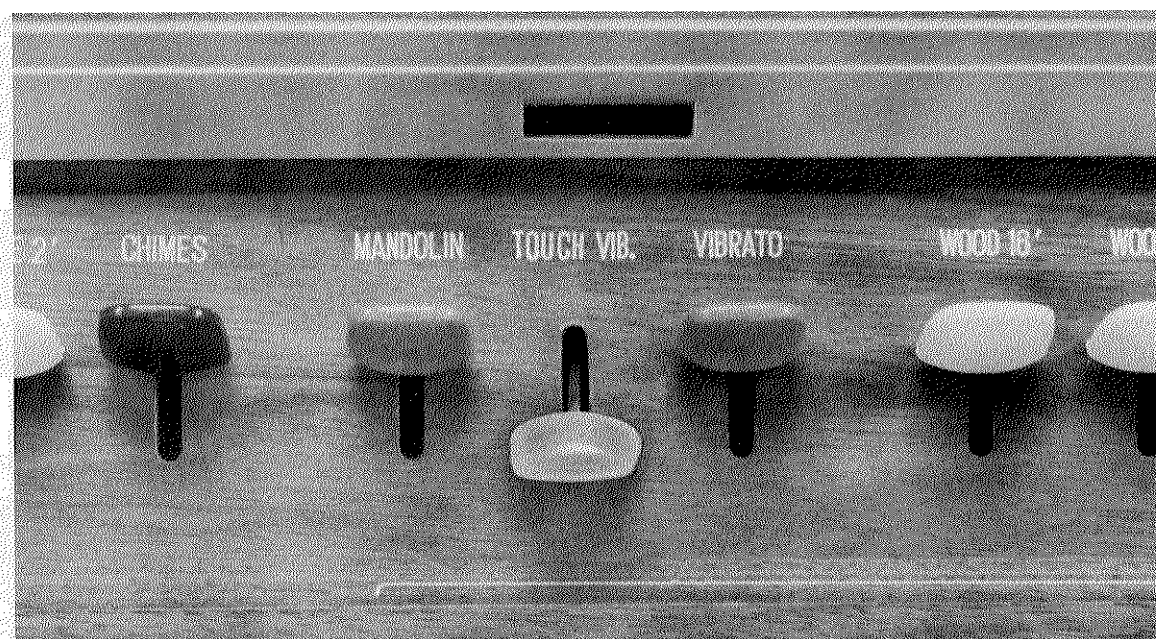
鍵盤テクニックで、鍵盤を左右に振

動させることにより、ゆるやかな、又こまやかなビブラートが、自由自在に表現できるのです。従来は、ビブラートレバーにより、ビブラートの深さを自由に変えて表現することはできましたが、機械的にセットされたビブラートにすぎず、演奏途中、このようにフィンガーテクニックによって、曲想豊かにビブラートを変化させることはできませんでした。それを全く可能にし、生きたビブラートにしたのが、このタッチビブラートです。

(下)写真のタッチビブラートの操作は、他のトーンレバーとまったく同

様でそのかかり具合は、下に押すほどその効果は大きくなります。一番演奏効果のよい所で止めてご使用下さい。

(注：トーンレバーパネルのビブラートを3の位置にしておきますと、タッチビブラート効果は発揮できませんのでご留意下さい。)



# プリセットについて

プリセットは、D-7がとり入れた画期的な機能です。あらかじめ演奏者が、プリセットパネルのトーンレバーを曲想に応じてセット（プリセット）しておき、演奏途中プリセットボタンの操作によって、トーンレバーパネルのトーンレバーの操作では、とても時間的に切り換える余裕

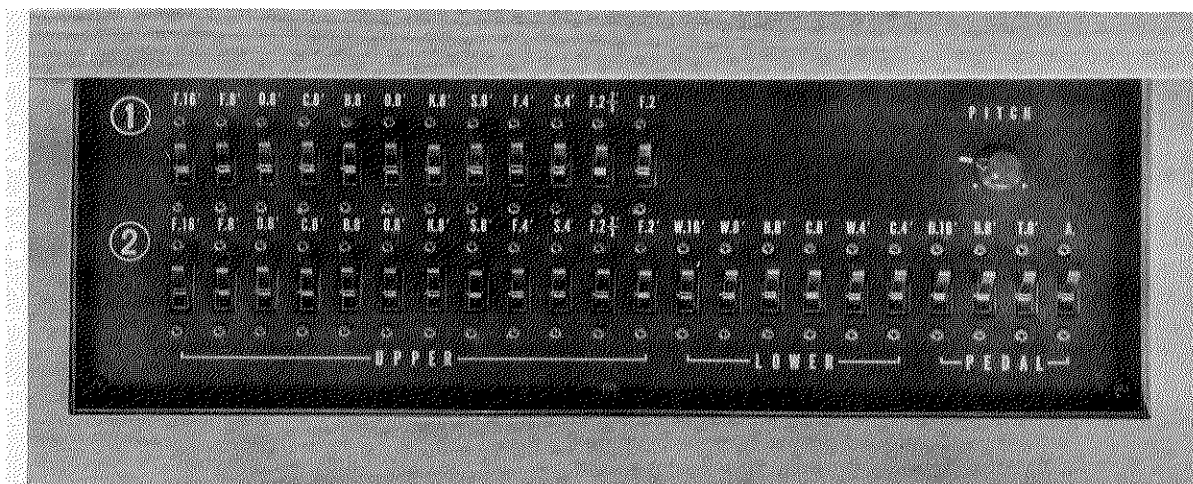
のない場合でも、瞬時に切り換え、変化の大きな演奏ができます。即ちスムーズでユニークな演奏が可能になり、従来エレクトーン演奏技術として、かなり大きなウエイトを占めていたトーンレバー操作が、トーンレバーが増加し、多様化したにもかかわらず、このプリセットの出現に

より、演奏者の表現力が一層巾広く発揮いただけるようになりました。では使用方法をご説明しましょう

## 〈プリセットボードの位置〉

プリセットパネルは、D-7に向ってお座りになると、ちょうど左足上部の口棒の下に格納されています。

## 〈プリセットパネルの図解〉



プリセットパネルには、上鍵盤トーンレバー系列①と上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤トーンレバー系列②とピッチコントロールツマミが内蔵されています。

## 〈プリセットレバー〉

プリセットレバーは、トーンレバーパネルのレバーに対応し、クリック

も0, 1, 2, 3段階に分かれており、操作も全く同じです。プリセットレバー①は、トーンレバーパネルの上鍵盤トーンレバーに対応し、プリセットレバー②は、トーンレバーパネルにある上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤のトーンレバーに対応します。

(但し上鍵盤のチャイムは除きます。)



### 〈プリセットボタン〉

プリセットボタンは、上鍵盤と下鍵盤の間に並んでいます。

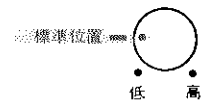
写真左より、プリセットボタン①②③④の順です。プリセットレバー群も前記しましたように、①②とありますが、それぞれ、プリセットボタン①②と連動しています。即ち①のプリセットレバー群を選択セットし、プリセットボタン①をONの状態にしますと、トーンレバーパネルのトーンレバーセットの如何にかかわらず、①でセットしたプリセットレバー群の効果が発揮できます。②のプリセットボタンについても同一です。プリセットボタン③は、外から選択

できない固定形になっており、Full Organにセットしてあります。プリセットボタン④は、プリセットキャンセル(Cancel)ボタンです。即ちプリセットによる演奏を元に戻す場合、このボタンを操作していただきます。

### 〈ピッチコントロール〉

プリセットパネル内にあるPITCHのつまみはピッチコントロールで、他の楽器とのアンサンブルにおいて効果的です。例えば、オーケストラとの共演においても、ピッチ合せが簡単にできます。右廻してピッチが上がり、左廻してピッチが下がります。ピッチ変化範囲は約439~445Hzで標

準ピッチ位置は下図の位置です。工場出荷の際は標準ピッチ440Hzにセットされております。



# カプラーについて

カプラーとはカップルをつくるもの、つまり一つの音と別の音を組み合わせる働きをします。これによって、一つの鍵盤を押ただけで幾つもの鍵盤を組み合わせさせて押した音がします。まずトーンレバーのうち、フルート8'をいっぱいにおろしてみましょう。8'とはパイプオルガンで8フィートのパイプを基準にしてつくられた音階と同じで、基音と呼ばれます。(エレクトーンにはパイプはありませんが、パイプオルガンの表現がそのまま使われています)次にトーンレバーのうち、フルート16'をいっぱいに入れてみます。これは16フィートのパイプと同じで、音の高さが1オクターブ低くなります。つまり、これでもとの音にオクターブ低い音が加わったことになります。その音は、フルート8'だけで出した音と、そのオクターブ下の音をいっしょに出した場合と同じ二重音です。

同様にフルート8'とフルート4'を加えた場合も同じく1オクターブ上の音をいっしょに弾いたのと同じになります。しかし重音で弾いた場合と違うのは、カプラーでは、レバーをどの程度下げるかによって、自由に音の強さを加減できることです。従って、ただの重音とは違い、新しい音色が作り出せるというわけです。これらのカプラーは、フルートとかウッドとかいう名前にあまりとらわれずに使ってください。プラス8'に

ストリング4'と、フルート16'を加えるといった使い方ができて、その組み合わせは、上、下、ペダルのそれぞれの範囲で自由に選べます。上鍵盤のトーンレバーなどは、ちょっと数え切れないほどの組み合わせ方があるわけです。

## 〈カプラー効果〉

- 16'……………1オクターブ下の音ができます。
- 8'……………実音（弾いた鍵と同じ高さ）ができます。
- 4'……………1オクターブ上の音ができます。
- 2 $\frac{3}{4}$ '……………1オクターブと5度上の音ができます。
- 2'……………2オクターブ上の音ができます。

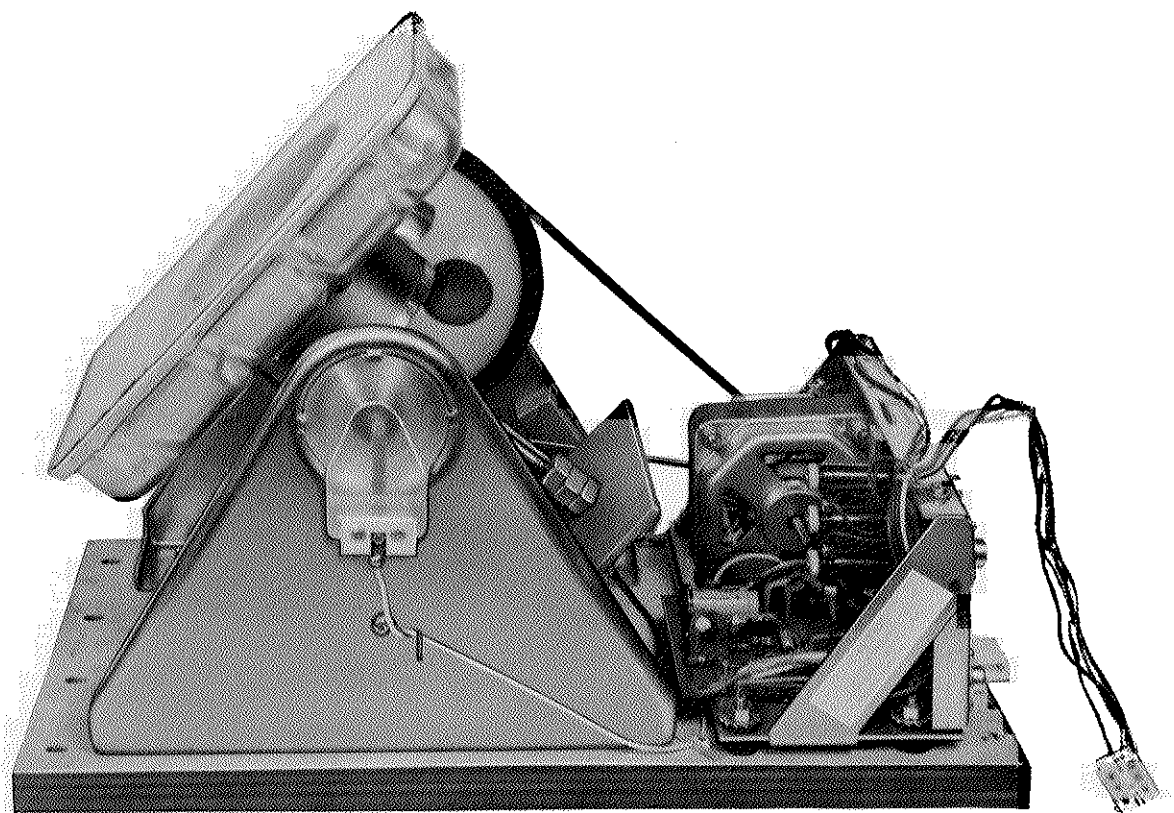


# トレモロについて

これが1台のエレクトーンの音だろうか？と思わず疑ってみたくなるような音の拡がり。つまり、各種のトーンレバーの組み合わせから生み出される音色に、ビブラートとはまた違ったなめらかな拡がりのある音の変化を与えているのが、トレモロ効果なのです。D-7のトレモロ効果には、写真のように、ヤマハが新

しく開発した、「生きた音」を創造するナチュラルサウンド・スピーカーを小型化した特殊機構が組み込まれています。この新しい機構でのトレモロ効果は、従来の反射板回転によるものと異なり、小型ナチュラルサウンドスピーカーそのものが回転する仕組みになっています。回転数は、ほぼ1秒間に7回転と、1秒

間に1回転の2段切換えとなっており、軽快な曲或は荘厳な宗教曲いずれにもマッチさせることができます。又その効果によりなめらかで豊かな音の拡がりを得られ、お部屋の中に音の輪をつくり出します。トレモロ効果の操作は下鍵盤右拍子木にある8つのタブレットのうち、右4つのタブレットを使います。



### ボイスタブレット④⑤

トレモロタブレット、またはコーラスタブレットを押した状態にしておいて、メイン及びトレモロに切り替えてみてください。メインの側ではトレモロはかかりませんが、トレモロにすると、美しいトレモロやコーラスの効果がかけられます。

### トレモロ タブレット ⑥

ボイスタブレットをトレモロの状態にしておいて、このタブレットを入れますと、小型ナチュラル・サウンド・スピーカーが回転し豊かなトレモロ効果がかかった演奏が楽しめます。この効果での回転スピードは、ほぼ7 Hzです。

### コーラス タブレット ⑦

ボイスタブレットをトレモロの状態にして、このタブレットを入れますと、小型ナチュラル・サウンド・スピーカーがゆっくりと回転して荘厳なコーラス効果のかかった演奏となります。とくにコーラスタブレットは宗教曲とかスローな演奏に効果的です。この効果での回転スピードは、1 Hzです。

(注)

トレモロタブレットとコーラスタブレットが両方入った状態では、トレモロタブレットの効果が優先します。

以上、トレモロ操作について、お解り頂けたと思いますが、D-7にはボイスタブレットが2つあります。**アッパーボイスタブレット⑤**と、**ローボイスタブレット④**です。

即ち、**アッパーボイスタブレット**を、ONにした場合は、上鍵盤にトレモロ効果が、又**ローボイスタブレット**をONにした場合は、下鍵盤にトレモロ効果がかけられます。勿論アッパーローボイスタブレットとも同時にONにした場合は、上下鍵盤にトレモロ効果が発揮できます。

メロディーとハーモニーのそれぞれに、トレモロ効果を分離してかけることができますので、一層効果的な演奏になります。

# パーカッションについて

## パーカッション

エレクトーンには、音色を多彩に変化させるトーンレバーの他に、さらに演奏巾を大きく広げ、よりエレクトーンを楽しんでいただくために、いろいろな効果を演出するエフェクトが組み込まれています。

パーカッションは、数々のエフェクトの中でも、楽しさを味わっていただくためには、最も適した効果といえましょう。

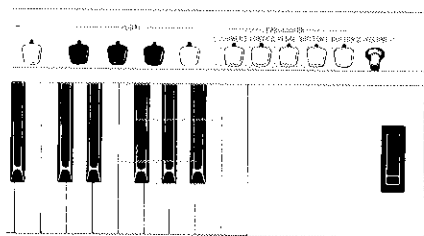
このパーカッションには、2通りの使い方があります。その1つは、打楽器の効果、つまりマラカスとかクラベス、あるいはスネアドラムのワイヤーブラシショットの音というように、打楽器をもう1台備えると同様の効果を発揮します。たとえば、ジャズやラテンを演奏するときなど、打楽器のバックが素晴らしい雰囲気を作り上げてくれます。

もう1つは雨、風、嵐、あるいは汽車の音など楽器とは違った楽しい擬音効果、特殊効果として使うことも可能です。

この様に、パーカッションとは、いわば、エレクトーンの演奏を巧みに演出する腕のいい演出家なのです。

では、D-7のパーカッションについて、くわしくご説明しましょう。

### 〈パーカッションレバー〉



正面パネルの右の5つの赤色レバーが、パーカッションのレバーです。

D-7のパーカッションは、下記の5種類に分けられます。

1. LOWER I (下鍵盤)
2. LOWER II (下鍵盤)
3. PEDAL (ペダル鍵盤)
4. BUTTON I (パーカッションボタン)
5. BOTTON II (パーカッションボタン)

この5つの組み合わせにより、リズムが非常に明確になりますので、特にマーチなどのようなアップテンポの曲では楽しさが倍加します。またリズム感を一層伸ばすには、格好の補佐役となるでしょう。

#### 1. LOWER I (ロワーI) ⑳

ロワーI、ロワーII及びペダルのパーカッションは、下鍵盤とペダル鍵盤に連動しています。ロワーIは、下鍵盤を押すと、下鍵盤の音色と同時に「チッ」という短い減衰音がダブルします。このレバーの操作によりマラカスあるいはスネアドラムのワイヤーブラシショットを伴奏させると同じ歯切れの良い効果を得ることができます。

#### 2. LOWER II (ロワーII) ㉑

この効果も下鍵盤と連動になっています。下鍵盤を弾きますと、下鍵盤の音色と同時に、「シャーン」という長い減衰音を得られます。ロワーIIにより、シンバル、あるいはスネアドラムのワイヤーブラシロールなどの効果が楽しめます。

#### 3. PEDAL (ペダル) ㉒

ペダル鍵盤を弾くことにより、ペダルの音色と同時に、「チャチャ」という音が重なりますので、一層歯切れの良い音色となります。これにより、体がウキウキするような軽快なリズムをはじき出すことができます。

#### 4. BUTTON I (ボタン) ㉓

このパーカッションは下鍵盤左拍子木の4組のパーカッションボタン㉓の操作で8種の効果音を楽しめるものです。パーカッションボタンの左側より、コンガ、ボンゴ、クラベスと、シャーンといった感じの音(例えばスネアショット又はロールの感じになっています)。

#### 5. BUTTON II (ボタン) ㉔

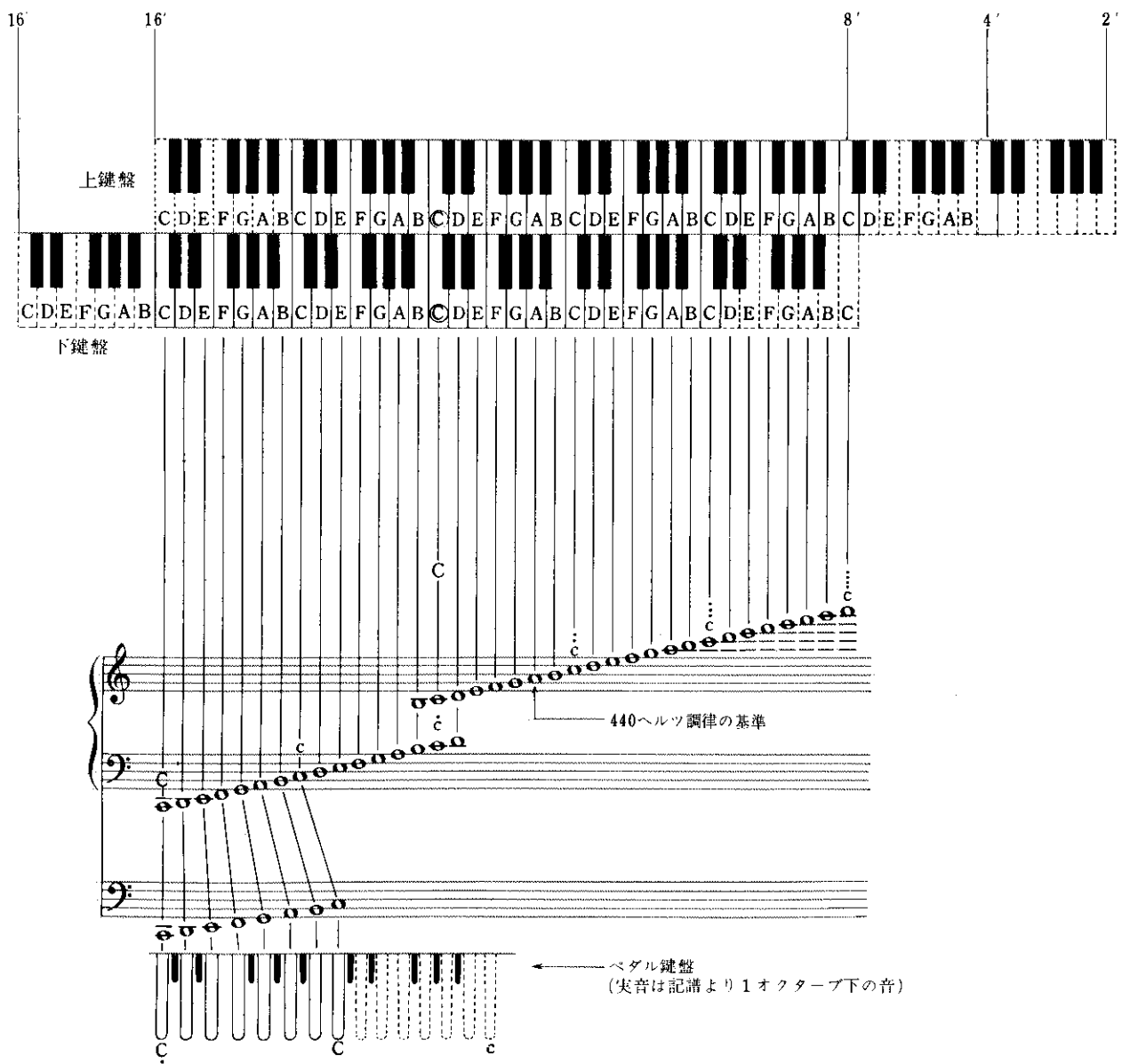
BUTTON Iと同様、下鍵盤左拍子木の4組のパーカッションボタン㉓の操作によってパーカッションボタン左よりシンバル・トライアングル更には演奏家の表現方法により、色々とは替ってきますが、連続的に鳴らし

つづけると、波の音、風の音などの特殊効果として、巾広く使うことができます。

このパーカッションは、打楽器効果だけでなく、このようにボタンを断続的に押したり、これにエクスプレッションを加えて持続的に押したりして、巧みな演出を加えれば、暴風雨の場面などを再現することができるのです。

このように、演奏者の感覚しだいで音の世界を無限に広げていくのが、パーカッションというわけなのです。

# ヤマハエレクトーンD-7の音域表



# ヤマハエレクトーンD-7型の仕様

鍵盤：上鍵盤：49鍵 4オクターブC~c。  
下鍵盤：49鍵 4オクターブC~c。  
ペダル鍵盤：25鍵C<sub>1</sub>~C<sub>2</sub>オクターブ  
トーンレバー=上鍵盤：フルート16' フルート8'  
オルガン8' クラリネット8' プラス 8'  
オーボエ8' キヌラ8' ストリング8' フルード4' ストリング4'  
フルート2本' フルード2' チャイム (c<sub>1</sub>~c<sub>3</sub>)  
下鍵盤：ウッド16' ウッド8' ホルン8' チェロ8'  
ウッド4' チェロ4'  
ペダル鍵盤：バス16' バス8' チューバ8'  
パーカッションボタン：4  
エフェクトレバー：マンドリン (上鍵盤)  
ビブラート (全鍵盤)  
ペダルアタック (ペダル鍵盤)  
ロワーI、ロワーIIパーカッション (下鍵盤)  
ペダルパーカッション (ペダル鍵盤)  
ボタンI、ボタンIIパーカッション (パーカッションボタン)  
コントロールレバー及びつまみ：プリリアンス (上下鍵盤)  
リバーブ (上下鍵盤) バランス (上下鍵盤)  
マニュアルサステイン (上鍵盤)  
ペダルサステイン (ペダル鍵盤) トータルボリューム  
ピッチコントロール  
タブレット=マニュアルサステイン (上鍵盤)  
ビブラート  
アッパープリセットツウパネル  
マニュアル8'4'アタック(上鍵盤8'4')  
アッパーボイス (上鍵盤) ロワーボイス (下鍵盤)  
トレモロ コーラス  
プリセット：上鍵盤1、全鍵盤1 フルオルガン1、  
その他=ニールレバー パワースイッチ ドアースイッチ  
エクスペリションペダル イヤホンジャック  
エクスターナルインプットジャック  
ACコンセント トーンキャビネットコネクター  
トランジスタシート 367石  
IC 24石  
ダイオードシート 184石  
メインアンプ 30W  
トレモロアンプ 15W  
スピーカー=ナチュラルサウンドスピーカー 1個 (メイン)  
スピーカー=ナチュラルサウンドスピーカー 1 (トレモロ)  
トレモロモーター=単相2極コンデンサー起動インダクションモーター  
消費電力=100V<sup>50</sup>Hz 130W(フルパワートレモロ動作時)  
外装=スライド蓋 間口114.9cm 奥行70.0cm 高さ94.3cm  
(譜面台を立てたとき118.3cm) 重量 115kg  
仕上=アメリカンウォルナット板目オイルフィニッシュ (セミオープンポア)  
及びアイボリーホワイト・ポリエステル仕上

# ヤマハエレクトーンD-7の構成

## 1. 音源回路

楽器の中核になる電気的な音の振動は音源回路でつくられています。

ヤマハエレクトーンD-7型はペダル鍵盤の最低音C<sub>1</sub>(32.7ヘルツ)から上鍵盤の最高音B<sub>5</sub>(7902ヘルツ)まで8オクターブ(97音)の音程を持ち、この音の振動を音源回路でくり出しています。

音源回路は3枚の基板にわかれておりそのうちの1枚は最高音1オクターブ12音(C<sub>5</sub>C<sub>5</sub><sup>♯</sup>~A<sub>5</sub>B<sub>5</sub>)を受持っており主発振器と呼んでおります。他の2枚は分周器と呼ばれるもので、主発振器の周波数を次々に半分に下げる働をします。この基板には集積回路(IC)24個が使用されています。オクターブの関係は周波数(1秒間の振動数でヘルツという単位)いうと2倍(あるいは $\frac{1}{2}$ )の関係にあるので、これを利用して主発振器は一つの系列の最高音(例へばa<sub>5</sub>は)の発振を行い、これを音源としてその系列での次高音(例へばa<sub>4</sub>は)主発振器に隸属する分周器で周波数を $\frac{1}{2}$ にして音源としています。従って主発振器の調律を行へば、オクターブの関係は自動的に合ってしまうわけです。

調律は主発振器の基板に附属する発振コイルのコアをまわして行います。その場合コアの左回転で周波数が高くなり、右回転で低くなります。

楽器全体の調律はいわゆる12音のわりふりを行うだけで簡単にできるのがエレクトーンの特長でもあります。主発振器はトランジスター1個を用いた回路ですが、電圧、温度の変化や、湿度、トランジスターの経年変化などに対して十分考慮してありますので調律の必要はほとんどありません。

分周器はICを用いた回路でやはり主発振器同様に安定に作動致します。以上の音源回路で作られる音(電気的な)は開閉回路やキースイッチにつながれています。

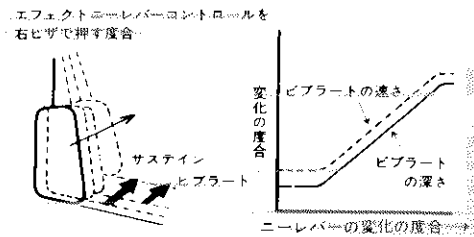
## 2. ビブラート回路

ヤマハエレクトーンD-7型では、コントロールパネルについているビブラートレバーの使い方の他に、上鍵盤を左右に動かすことによってビブラートをかけることの出来るタッチビブラートがあります。

タッチビブラートは鍵盤を左右にふるわす様な感じで演奏するとビブラートがかかります。またビブラートの速さと深さを同時に変化させたいときには次のエフェクトニーレバーコントロールの操作でできます。これは、シンギングビブラートで継続的な演奏途上のビブラートに速さと深さの変化がつけられ、バイオリンなどの演奏によるビブラートの微妙な変化を求めることができます。この結果、いままでより以上の表現が

可能になったわけで、演奏者の夢がひとつここに実現されたわけです。

このシンギングビブラートの動作のしくみは下図のようになります。



---

### 3. 開閉回路

---

ヤマハエレクトーンD-7型サステインは上鍵盤とペダル鍵盤にかかります。

その上簡単な操作でサステインの長さが変えられます。まず上鍵盤から説明しましょう。

右ひざでエフェクトニーレバーコントロールを押していただきます（但しニーセクターのサステインタブレットをONにする）と上鍵盤にサステインがかかります。上鍵盤の左の拍子木にある右から2つ目のサステインの長さを変えることが出来ます。レバーを右にまわすとサステインは長くなります。サステインを長くして演奏する場合はスローテンポのピアノ曲が向きましょう。逆に早い曲のスタッカート奏法のときには、短いサステインが適しています。足鍵盤は上鍵盤左の拍子木の一番左側から2つ目の“PED SUSTAIN”のレバーを操作することによってサステインが得られます。手鍵盤と同様、スローテンポのものにはサステインを長くし、軽快な曲（ジャズ、ポピュラー）で早いテンポのものにはサステインを短くし、これとペダルアタックを併用することにより、ベースのピチカートの奏法も可能です。また、エクスプレッションのテクニックと合わせてチューバ独特の

味が、足鍵盤のサステインによって表現できます。

---

### 4. 音色回路

---

開閉回路を通った音は、次に音色回路に入ってきます。音色回路は、手鍵盤に8枚、ペダル鍵盤に1枚、計9枚のプリント基板に組みこまれています。音色回路は、エレクトーンの最も特長ある部分でHi-Fi装置などにある音色調整のつまみと同じ原理で、トランジスタを使ったアクティブフィルター、コイル、コンデンサー、抵抗器などを組み合わせて入ってきた音の「基音や各倍音」の含まれる割合を自由に変えてさまざまな音色をつくりだします。ヤマハエレクトーンD-7型の上鍵盤にはフルート、オルガン、クラリネット、ブラス、オーボエ、キヌラ、ストリング、下鍵盤にはウッド、ホルン、チェロ。ペダル鍵盤にはバス、チューバという名称を持った回路がそれぞれあります。音色回路を通してそれぞれの音色になった音は、パネルにやってきます。コントロールパネルには、それぞれの名称のトーンレバーがあり、これに連結して、トーンボリュームがあります。トーンレバーは下に押し下げると音が大きくなりますが、途中クリックストップといってちょっと手ごたえのある箇所があり

ます。これが、調節の場合の日安になります。トーンレバーを調節し、組み合わせることによって異なる音色を自由に、かつ無限につくることが出来ます。一つの楽器で、さまざまな音色を出したり、多彩な演奏ができるのはエレクトーンだけといえましょう。

---

### 5. プリセット回路

---

ヤマハエレクトーンD-7型には、あらかじめトーンレバーの組合せをセットしておき、演奏中に音色を切替ることが出来る。プリセット回路が組込まれています。

プリセットは下鍵盤の左側の下の棚板についている引出しに小さなトーンボリュームが①、②、と2列ついています。①列は上鍵盤のみで、前面パネルと同じ様にトーンレバーが並び②は上鍵盤、下鍵盤ペダル鍵盤のトーンボリュームと同じ様になっていません。

御使用の際にはあらかじめ①、②、に必要なトーンレバーのセットをし、上鍵盤と下鍵盤の間の口棒についている①、②、と番号のついてる押ボタンを押してみてください。それぞれボタンを押した時にプリセットの音色で鳴るはずですが、少しはなれて③のボタンがあります。



これはすでに本体内でセットされている音で、すべてのトーンボリュームを入れた状態にセットされています。(フルオルガン)

これ等のプリセットの状態からまた元の状態に戻す方法は③のボタンを押すと戻ります。また別の用途になりますが、下鍵盤の右側の拍子木についている。“UPPER PRESET TO PANEL.”と言うタブレットを入れて、ニーレバーを右に押しますとニーレバーを押している間だけ音は前面パネルで組み合わせた音が鳴ります。ニーレバーを離すと音はプリセットの音に戻ります。プリセットの状態から別のプリセットに移る場合はそのプリセットボタンを押せば変わります。尚プリセットにはエフェクトレバーは関係ありませんので、エフェクトはプリセットの場合にもそのまま働きます。

## 6. プリリアンス効果回路

プリリアンスは抵抗とコンデンサーで構成され、高域倍音をどこで切るかによって音の感じを変えます。

パネルのプリリアンスレバーをOFFの状態にすると高域倍音が大はばに切られて暗い感じがします。ONの状態にしますと、音域倍音の切れ方が少なくなり、明るい感じがします。曲想に応じた明暗が、演奏のな

かで楽しめます。

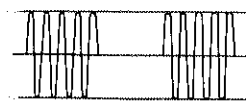
## 7. パーカッション回路

パーカッション回路は3枚のプリント基板によって音を作り出し、下鍵盤、ペダル鍵盤、パーカッションボタンにそれぞれ接続されています。原理的にはトランジスタの雑音を拡大して、コンデンサ、コイル、抵抗等により特定周波数の成分を強調させるものと、周波数の異なる数多くの音を種々組合せて作る回路とがあります。

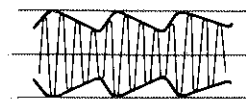
エレクトーンD-7型では下鍵盤に連動して鳴る音がパーカッションレバーのうちの“LOWER I.”、“LOWER II.”の2種ペダル鍵盤に連動する音が“PEDAL.”のレバー1種、パーカッションボタンよりの音は“BUTTON I.”、“BUTTON II.”のレバーにより11種類になります。これ等の音を使いわけることにより、演奏はさらに多彩になります。

## 8. マンドリン効果回路

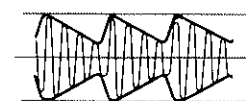
ヤマハエレクトーンD-7型ではマンドリン効果の深さをコントロールパネルで容易に変えられます。マンドリンの深さの変る様子を示したのが次の図です。



マンドリンを入れな  
いとき



マンドリンが浅いとき



マンドリンの深さが  
一番深くなったとき

## 9. バランス回路

マンドリン効果回路を経た上鍵盤の音とコントロールパネルでまとめられた下鍵盤の音は、バランス回路に入ります。バランス回路は、上鍵盤の左にあるバランスレバーの操作によって上下鍵盤の音量を調節するためにあります。バランスのレバーを左にまわすと下鍵盤の音量は大きく、上鍵盤の音量は小さくなり、右にまわすと、この逆になります。バランスは、両方の鍵盤の音のバランスをとったり、一方を強調したりするために用いられ、演奏上なくてはならないものです。バランス回路を経た上下鍵盤の音は、パネル部分で最終的にまとめられてプリアンプに入ります。

## 10. メインアンプ

プリアンプとメインアンプの間に  
エクスプレッションペダルが入って  
います。エクスプレッションペダル  
は、エレクトーン全体の音量を演奏  
者に思いのままに調節していただく  
ためのもので、ダイナミックレンジ  
の大きいこととあいまって、エлек  
トーンの表現力をきわめて大きくし  
ています。メインアンプは、Hi-Fi  
装置などと同じく音を大きくするた  
めのもので、オールシリコンラン  
ジスタを使用し、プリント基板配線  
方式をとっております。

エレクトーンD-7型にはトレモロ  
スピーカーとノントレモロスピーカ  
ーを別々に駆動させるために2つの  
メインアンプを備えています。また、  
大きな音量が必要なときには、ト  
ーンキャビネットをエレクトーンに接  
続して使用しますと、音は、エлек  
トーン本体と、トーンキャビネット  
の両方から出すことができます。ト  
ーンキャビネットから出る音は、エ  
レクトーン本体よりも大きな音量で  
す。学校の講堂、ホールなどの広い  
場所で演奏する場合には、これを併  
用されるのが最適です。

## 11. エキスターナル(EXT)ジャック

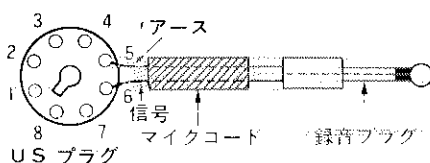
エレクトーンD-7型の裏側にト

ーンキャビネット接続端子とならんで  
エキスターナルジャックがついてい  
ます。エキスターナルジャックを利  
用しレコードやテープの曲をエлек  
トーンから出し、これに合わせて競  
演を楽しむことができます。また先  
生の録音テープに合わせて連指練習  
もできますので部屋に居ながら個人  
レッスンが受けられるわけです。

### ご注意

- 1：接続して使用するテープレコー  
ダやプレーヤーなどの種類により、  
再生音量に差があります。
- 2：テープやレコードと同時演奏さ  
れる場合入力オーバーで音が歪むこ  
ともあります。このような時には、  
各々のボリュームを絞り歪まないよ  
うにしてお使いください。
- 3：アンプ内部、その他の回路には  
絶対に手を触れないでください。
- 4：テープに録音される場合は、イ  
ヤホンジャック又は、トーンキャ  
ビ端子GENERALをお使い下さい。  
尚、イヤホンジャックをご使用の場  
合は、本体からの音は切れます。又、ト  
ーンキャビ端子は右図の様に接続下さい。  
プラグは、弊社支店、出張所又は販  
売店でお求め下さい。  
うまく録音できない場合は、お買上  
げ頂いたお店に御相談下さい。

5：エキスターナルジャックはノン  
トレモロのメインアンプに接続され  
ていますから、外部よりの信号にト  
レモロはかかりません。その他ご不  
明の点がありましたら、お買上店も  
しくは弊社支店エレクトーン技術係  
にご相談下さい。



## 12. トーンキャビネット端子

エレクトーンD-7の裏側には下図のように3つのトーンキャビネット用端子とエキスターナルジャックがついています。

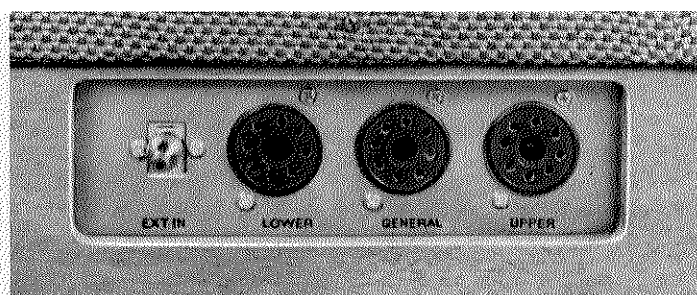
トーンキャビネット端子3個は、左から各々**LOWER**(下鍵盤)**GENERAL**(上、下、ペダル鍵盤総合) **UPPER**(上鍵盤)となっており、トーンキャビネット2台を用いて演奏する場合、左、右別々のトーンキャビネットから、上、下鍵盤を分離してステレオ効果を持たせることができます。なおペダル鍵盤は、左右両方のトーンキャビネットからバランスして音が出ます。

トーンキャビネット1本の場合は、**GENERAL**端子を用います。又録音等の場合も、**GENERAL**端子を用いて下さい。

(エレクトーンD-7背面)

エキスターナルジャック

トーンキャビネット端子



# ヤマハエレクトーンD-7の保存法

## エレクトーンD-7の保存法

一般的に他の楽器、例えばピアノとかオルガンと同じ取り扱いをしていただければ、ほとんど問題はありません。しかしエレクトーンは電気部品を使用していますから、次の点を特にご注意下さい。

1：オールトランジスタ使用のため放熱はありませんが、使用後は、電源スイッチを切り忘れないようにしてください。

2：日光の直射する所に置きますと色があせたり、木材の接着部分がはがれる恐れがありますから、なるべくさけてください。

3：その他、湿気の多い所、暖房装置の近くはさけてください。

4：鍵盤蓋の開閉は、そのまま蓋の取手に手を添えて中に出し入れして下さい。蓋を上を持ち上げたり、蓋の上に重いものをのせないで下さい。

5：このエレクトーンの外装に使用している塗料は、ビニールと化学反応を起こし、塗装面を傷つけることがありますので、ビニール製カバーなどのご使用にならないで下さい。

## 椅子の組み立て方

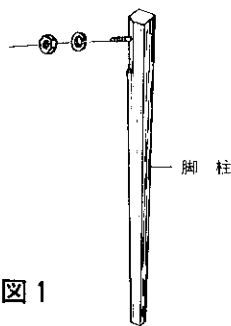


図1

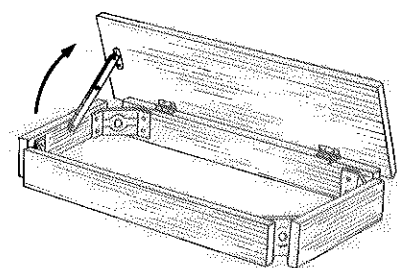


図2

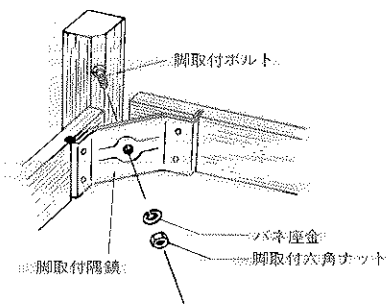


図3

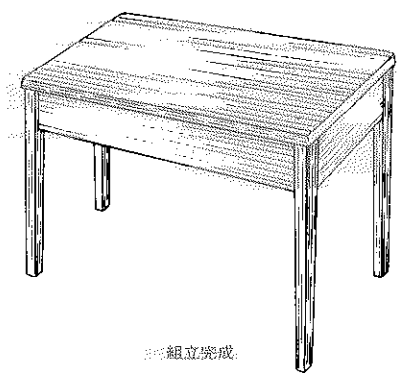


図4

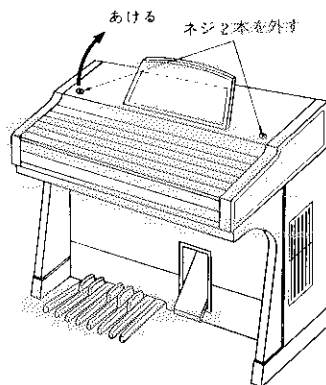
# ヤマハエレクトーンD-7の調整法

## エレクトーンD-7の調整法

エレクトーンD-7は、マンドリンの速さ、ピブラートの速さなど、あらかじめ標準状態に調整してありますが、お弾きになる方の好みに合わせて調整いただけるようになっています。また、他の楽器とピッチを合わせる必要が生じた場合など、エレクトーン技術者でなくても必要に応じて簡単に調律できるよう配慮してあります。トランジスタ回路になっていますから、電圧が低く、感電の心配はまったくありません。

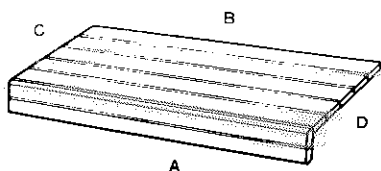
### 〈調整のためのエレクトーンの開け方〉

調律および調整箇所は内部にあります。ドライバーで図示の通り天屋根部分の⊕ネジ2本を外すだけで心臓部が現われます。



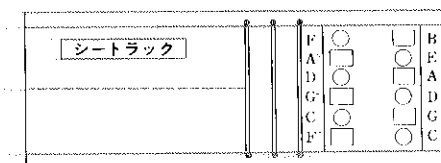
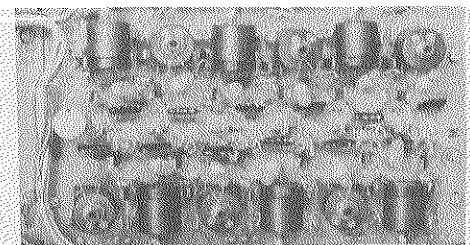
### 手順

- 1：天屋根のネジ2本を外して開ける。
- 2：スライド蓋を引きだし、外装にキズをつけないように静に取り外してください。
- 3：スライド蓋の持ち方  
A B点を持ち、C D点は持たないでください。



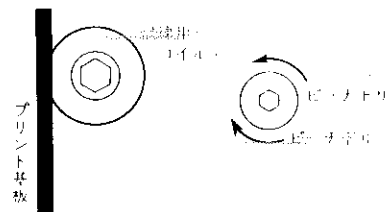
### 〈各部調整法〉

各部の調整には、必要以外のところに、金属で触れないで下さい。場合により、回路部分を損傷することがあります。



### 1：調律の仕方

プリント基板格納図でおわりの通り、向って右側1板のプリント基板が音源になります。図の六角の部分調整箇所、プリント基板止めわく右端に添付の特殊ドライバーを使って調律いたします。聞きわけやすい音色（例えば上鍵盤フルート8'など、倍音の少ない音）で、中央の1オクターブを使って行うのがいちばんよく、1オクターブを合わせるだけで、上から下まで全部調律されます。ネジの回転方向は、左回転でピッチが上がり、右回転で下がります。



### ご注意

ふつうの場合、半回転以内で、5ヘルツ程度変化しますので、まわしすぎないようにご注意ください。まわしすぎて、もとの位置がわからなくなることがあります。

通常、ピッチの狂いはありませんが万一、極端に狂ったような場合は故障ですからネジをまわしても直りません。このような場合には手を触れずに、お求めの楽器店にご通知ください。

## 2：他の楽器とピッチを合せる場合

プリセットボード部分に、ピッチコントロールツマミが格納されておりますので、このツマミで合せてください。

工場出荷時には、440 Hzの標準ピッチで調整されておりますが、必要に応じて上、下が可能です。右廻しでピッチが上り、左廻しで下ります。このツマミだけで、全体のピッチがセットできますので便利です。

## 3. リバールレベル調整

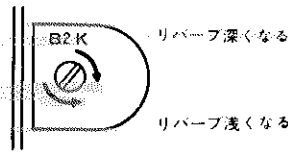
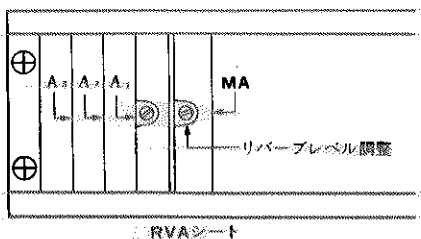
シート板ラック中に R V Aシートがあります。(下図参照)

R V Aシートの中に調整用のボリュームが1個ついています。

調整ボリュームはドライバーを使用しなくても手で十分に廻せますし、感電の危険もありません。

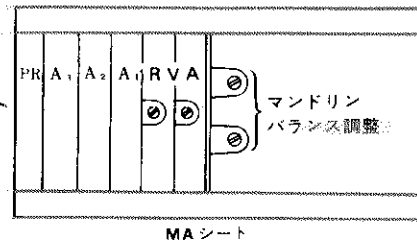
拍子木の“REVERB”レバーを(・)最大の位置にして御自分の好みに合う様にご調整下さい。

なおリバーブを深くかけすぎますとハウリングを起しますのでご注意下さい。



## 4：マンドリンバランス調整

マンドリンの速さやかかり具合と直接関係ありませんが、トーンレバーを入れずにマンドリンレバーのみを入れ、エクスプレッションペダルを最大に踏みこんだとき、小さくポトポト音のすることがあります。万一気になるくらい大きく聞こえるときは、マンドリンバランス調整ボリュームで調整して下さい。



この調整は、2個のボリュームで行います。それぞれのボリュームを少しずつ回転させて、雑音がいちばん小さくなる点にセットして下さい。

# ヤマハエレクトーンD-7の ヒューズ交換

通常の場合、ヒューズの切れることはありませんが、内部の故障や電源の異状ショック。また長い間使用してヒューズが弱くなってきた場合などに切れることがあります。

エレクトーンD-7型には、トレモロ、ノントレモロの2台のメインアンプを使用しています。メインアンプには、トレモロアンプは2本、ノントレモロアンプには3本のヒューズが使用してあります。

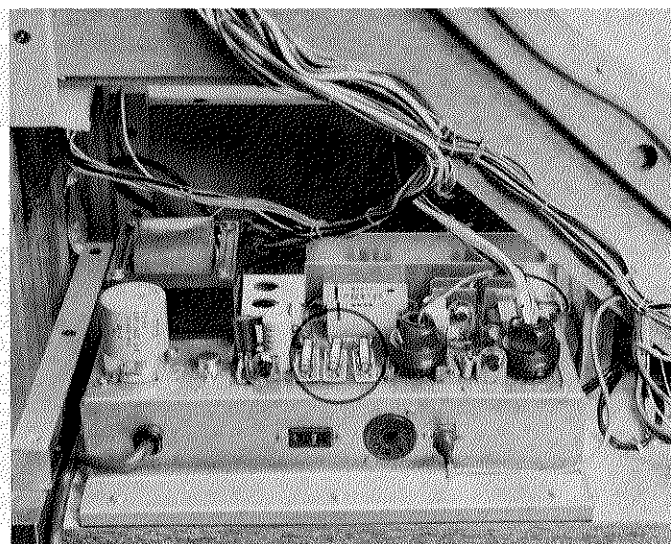
万一切れた場合には、エレクトーン

内部（前板を開けた右側の下にノントレモロアンプ、左側にトレモロアンプがあります。）右側板にサービスヒューズが用意してありますからお取替えいただくことが出来ます。交換してもすぐ切れるようでしたら、内部が故障していると考えられますのでアンプ内部には、手を触れずにお求めの楽器店にご通知下さい。エレクトーン技術者が直ちにお伺い致します。

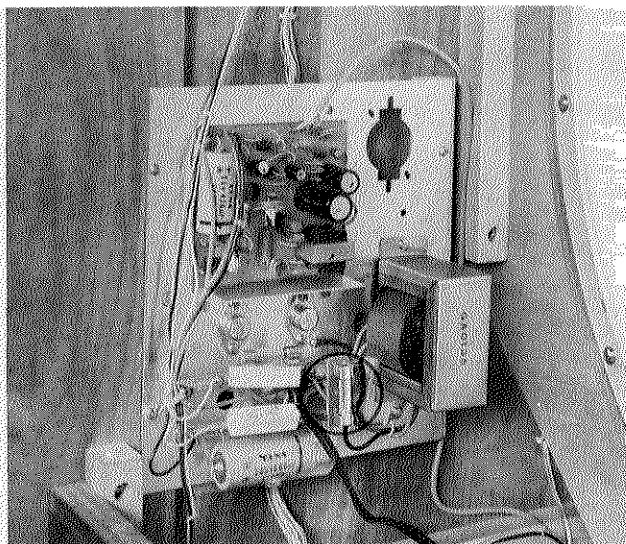
## （ご注意）

1. 必ず電源コンセントを抜いてから手を触れて下さい。
2. ヒューズはガラス管入りの2.0 A容量ですから針金や銅線等の代用は絶対にしないで下さい。
3. 交換の前に切れたヒューズを確認して下さい。ガラス管が黒くなるか内部で線が切れているかしています。

ノントレモロアンプ



トレモロアンプ



# こんな場合は故障ではありません

下記のような故障ではない故障でサービスを依頼された場合には、保証期間中であっても実費料金を頂きます。

○スイッチを入れた瞬間ボンと音がする……

メインアンプ内部に電気が流れたため、エレクトーンが作動する証拠です。安心してお使いください。

○フルート1 $\frac{3}{4}$ 'と1'のレバーを入れた場合最高オクターブで出ない音がある……

E-3型では、最高音の音源がb $\flat$ 5までとなっております。

ですから1 $\frac{3}{4}$ 'の場合はA~C、1'の場合はC $\sharp$ ~Cの音が出ないこととなります。これは故障ではありません。

○16' 8' 4' 各々のカプラーによって発音位置が異なる……

実用上支障のない範囲に精密調整してあります。一般に多くの音栓を持つオルガン、パイプオルガンやエレクトーンでは同時発音が難しく、同時発音しないのが実状です。

○ペース鍵盤は同時に2音を押しても1音しか出ない……

ペダルサステインをかけた時に、前の音と後の音が混り、きたない音になります。これを澄んだきれいな音とするため、前の音が鍵盤を押した瞬間に消えるような仕組みとなっております。同時に2音押すと高音の方のみ(高音優先)音が出ます。

○音が割れる(共鳴する或はビビル)

エレクトーンの音は持続音ですから周囲の戸棚、窓ガラスその他の器物に共鳴する事が多くあります。

音量を小さくするか又は共鳴物を取り除けば防止できます。

○時々雑音が入る(ガリッとかポツンという雑音)……

原因は、家庭の電気冷蔵庫、洗濯機電気コタツ、揚水ポンプ等々……の電気器具の電源入、切り時或は市街地でのネオンサイン故障、電気ドリル等から誘導して起る場合が多くあります。

電気製品が原因の場合は、原因と思われる器機から出来るだけ遠くのコンセントをお使い下さい。

気にならなければ別にエレクトーンには支障ありませんのでそのままお使い下さい。

又ネオン、蛍光灯等の故障で発生している場合は修理すれば直ります。

原因不明の場合及びご不審な点がございましたら、お求めの楽器店或は日本楽器各支店出張所エレクトーン技術係宛ご相談下さい。

○ペダル鍵盤ではピッチが高く、上鍵盤高音部では低く感じる……

特にピアノと比較した場合に感じる

もので、音色を形づくる倍音構成の違いから生じます。

即ち、ピアノでは倍音構成が複雑で(特に高音、低音では)実音での調律ができず、低音を聞いて調律致します。しかしエレクトーンでは、倍音構成が整数倍になっておりますので、逆にピアノの様には調律出来ず、実音で調律致します。

この様にピアノとエレクトーンでは本質的な相違があります。

エレクトーンと同じ調律の行われているものにパイプオルガンやリードオルガンがあります。

○ラジオやテレビ等の電波が入る……

近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局がある場合にこの様なことが起きます。

どうしても気になる場合には、お求めの楽器店或は日本楽器各支店出張所エレクトーン技術係宛ご相談下さい。

○トレモロ又はコーラスを作動した時に作動音が出る……

内部に組み込まれている回転スピーカーが作動して出る回転音ですが、回転部分に精密仕上を施し、演奏上には、支障のない程度の大きさに抑えております。



○電源を入れたまま、エレクトーンに大きな振動やショックを与えると大きな雑音が出る。……

これは、内蔵のリバースレクション装置に振動が伝わって起るものです。このリバースレクション装置は柔らかいスプリングを使用しておりますので、使用中は大きな振動やショックを与えない様にして下さい。又エレクトーン設置にあたっては、ぐらつかない様に設置して下さい。万一移動する必要が生じましたら、電源スイッチを切るか、リバースレバーを右に回して、リバースをかからない様にしてから移動して下さい。

○エフェクトセクタータブレットを入れるとビブラートレバーがきかなくなる……

エフェクトセクターは、エフェクトニーレバーコントロールの操作性のよさを従来のサスティーンだけでなく、ビブラートにも応用し、一層巾広い表現力を得ようとするものですが、エフェクトセクターを入れた場合にはビブラートレバーが働かない様になっております。しかしエフェクトセクターを入れない場合にはビブラートレバーは働きます。

○同じ音色で弾いたとき、鍵盤により音量のバラツキがある……

一般に電子楽器では、音色を変えるという本質的な要素を持つため、音色による各鍵盤の音量バラツキをな

くすることが非常に難しいわけです。エレクトーンではどの音色に変えても演奏上問題のない様に設計、調整されております。

しかし音の強さや音色はエレクトーンの設置場所の状態や聞く位置などによって、大きく異なることがありますので、どうしても気になるときはお求めの販売店或は日本楽器各支店出張所エレクトーン技術課宛にご相談下さい。

○白いトーンレバーを入れて、鍵盤を押すと音が出る時にブツッ(ポツツ)という雑音が入る……

これは、音の信号を直接鍵盤の下にあるスイッチで入り切りする時に発生するもので、専門的に、クリックと呼んでおります。

このクリックは弾く曲により、例えばスローテンポでムーディーな曲では悪者扱われますが、パンチの効いた早い曲では非常に貴重で、なくてはならない存在となります。

本質的にこのクリックをなくすることが出来ませんので、エレクトーンE-3ではこの白いレバーの欠点を、補う為に黒色のレバーを合わせ持っておりますし、又白いレバー単独で使っても、演奏上支障にならない程度まで、クリックを軽減しております。

○ブリリアンス効果がフルート系(ウッド)の音でかかない。

ブリリアンスは抵抗とコンデンサの組合わせによって、高域の倍音をカットする為に、フルート系の音(フルート4', 8', 16', ウッド4', 8', )の様に倍音の少ない音や、ペダル鍵盤の様に低い音には効果がかかりません。ブリリアンス効果はストリングやオーボエ、ブラス等の倍音の多く含まれた音により強く作用致します。

○エレクトーンに鼠が入って故障を起した場合……

エレクトーンの内部に鼠が入り束線その他を切ったりすることにより故障が発生した場合には保証期間中でもサービス料金を頂戴致します。

鼠の入るおそれのあるところはお求めの楽器店或は日本楽器各支店出張所エレクトーン技術係宛ご相談下さい。実費にて防鼠処置をさせていただきます。

○ヘッドホーンで練習のとき、“ブーン”という電気の雑音(ハム)が気になる……

本体のスピーカーで音を出している時には、あまり気になりませんが、ヘッドホーンを使って練習する際、“ブーン”という電気のうなり雑音(ハム)が気になることがあります。この様な時は、エレクトーンの電源プラグをコンセントへ逆に差し込んでみて下さい。雑音(ハム)が防止出来ます。

# ヤマハの保証とサービスシステム

## 保証

エレクトーンの保証は、保証書によりご購入より満一カ年といたします。但し、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内にてのみ有効と致します。

## 保証書

エレクトーンの納入調整サービスの際、納入調整者が、保証書内へ必要事項記入の上、お客様にお渡し申し上げます。

保証書をお受取りの際は、お客様の住所、お名前、お買上げ月日、販売店名……等を必ずご確認ください。無記入の場合は無効になりますのでくれぐれもご注意下さい。

## 納入調整サービス

エレクトーンをお納めさせて頂きますと、販売店からエレクトーンのご説明かたがた、お納めしたエレクトーンの調子を最良の状態にするよう点検調整にお伺い致します。

お求めのエレクトーンについて、ご不明の点およびお聞きになりたい点がございましたらその節にお願い申し上げます。

## アフターサービス

1：保証期間中に万一故障が発生した場合には、ヤマハ特約楽器店、小売楽器店に、ご連絡いただきますと販

売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。

調整いたしました際には、必ず保証書をご提示ください。ご提示なき場合、或は紛失なされた場合には、保証期間中でも有料になりますからご了承ください。

尚、この保証書はサービスにお伺いした際今後の製品改良の貴重な資料とする為技術者がお預り致します。お預りした保証書は弊社支店に送られ、記録した後各支店から直接お客様にご返送申し上げます。この間約1週間～10日間程度を要しますが、ご心配なくお待ち下さる様お願い申し上げます。

2：お買上げ楽器店より遠方に移転される場合は事前にお買上げ楽器店或は弊社支店にご連絡いただきますと移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行う様手続き致します。

## 保証期間後のサービス

満1カ年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますがいつまでも責任をもってサービスを致します。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様ご連絡いただきましたら移転先の楽器店をご紹介します。

## 保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンを、ご購入いただいたお客様にご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中でありましても、実費を頂戴させていただくことになります。

万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけます様に充分ご配慮の上ご保管下さい。

又、保証期間が切れましても、お捨てにならないで下さい。後々のサービスに際しての機種種の判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

**ヤマハエレクトーン保証書** MODEL D-7

製造番号                     

このたびは、ヤマハエレクトーンをお買上げ頂きましてありがとうございます。このエレクトーンは厳重な検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による自然故障の際は裏面の保証規定により、無償にてご調整申し上げます。

お買上げ日	昭和	年	月	日
保証期間	1カ年間			

【保証書のご使用方法】

- この製品の保証期間内に故障の際は、本証をサービスの際ご提示下さい。
- この保証書は、サービスにお伺いした際、今後の製品改良の貴重な資料とする為、技術者がお預り致します。

お預りした保証書は、日本楽器支店に送られ、記録した後各支店から直接お客様にご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますが、ご心配なく、お待ち下さる様、お願い申し上げます。

浜松市中区町10番1号  
日本楽器製造株式会社

お名前

お住所

お電話番号

殿

□□□-□□

# ヤマハエレクトーンD-7の記譜法

## 1：この記譜法の使用について

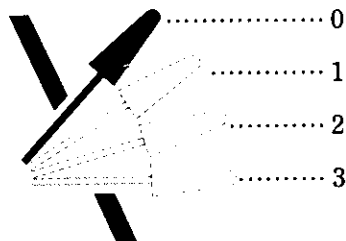
エレクトーンD-7型は、従来のエレクトーンに比べて、トーンレバー、エフェクトレバーの数も多く、機能の面でも機構に於いても複雑になっています。したがって、楽譜の上に表記する場合に次の二つの方法を考えました。

- I) 使用するレバーのクリックストップの数字を中心に表わす方法  
従来と同じ記譜法
- II) 使用するレバー名のみを表わす方法

編曲していく際、より効果的でより見やすく、演奏しやすいという観点から、I)、II)のいずれかをお選びください。

なお、プリセットボタン(記憶装置)の使用により、記譜が非常に簡単になりますので、ご活用ください。その際のレジストレーションは曲の終わりに明記してください。

## 2：トーンレバーの指定



トーンレバーの指定はクリックストップの位置0, 1, 2, 3で示します。

### 上鍵盤のトーンレバー (Brilliance)

Flute 16'	Flute 8'
Organ 8'	Clarinet 8'
Brass 8'	Oboe 8'
Kinura 8'	String 8'
Flute 4'	String 4'
Flute 2号'	Flute 2'

### (Chime)

\* ( ) 内のBrilliance, Chime, はエフェクトレバーとして扱います。

### 下鍵盤のトーンレバー

Wood 16'	Woob 8'	Horn 8'
Cello 8'	Wood 4'	Cello 4'

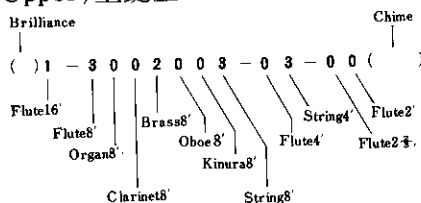
### ペダル鍵盤のトーンレバー

Bass 16'	Bass 8'	Tuba 8'
----------	---------	---------

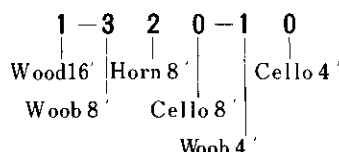
### トーンレバー表示法

トーンレバーの表示法として、従来どうりクリックストップの数字を用い、左から実際のトーンレバー配列と同じ順序で記します。

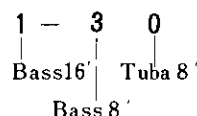
### (Upper)上鍵盤



### (Lower)下鍵盤



### (Pedal)



同倍音のトーンレバー群をはっきりさせるために、16'、8' (基音)、4、それ以上の音群の間に-を入れます。Chime(略号Ch.)のクリックストップはONとOFFですが、この表示法では次のように示します。

使用するときには(Ch.ON)のように示し、使用しないときは( )だけ記します。

Brilliance(略号Bril.)はクリックストップの数字で表わします。即ち、Bril. 2というように( )の中に示し、使用しない場合は、ただ( )だけを記します。

### トーンレバー表示法 II

使用するトーンレバー名のみ記入します。レバーのクリックストップ数字の指定は、そのレバー名のすぐ右横に記しますが、普通は演奏者の選択に委ね省略してもかまいません。

例1 (Upper)

Flute	16'	2
Flute	4'	3
Flute	2 $\frac{2}{3}$ '	1
String	8'	3
String	4'	2

(Lower)

Wood	16'	2
Wood	8'	3
Horn	8'	3

(Pedal)

Bass	16'	2
Bass	8'	2

例2 (Upper) Flute 16' 8' 4'  
2 $\frac{2}{3}$ '  
String 8' 4'  
(Lower) Wood 16' 8'  
Horn 8'  
(Pedal) Bass 16'

2: エフェクトレバーの指定

エフェクトレバー

- Mandolin (略号 M.)
- Vibrato (略号 Vib.)
- Touch Vibrato (略号 T.Vib.)
- Brilliance (略号 Bri.I.)
- Chime (略号 Ch.) 述
- Attack (Pedal) (略号 A.)

上記のレバーは略号を用いてトーンレバーと同様、数字で示しますが、Mandolinは使用するときのみ記し、Vibratoは使用されないときでもVib. 0と記します。

Touch Vibratoの使用は、ON、OFFで表示します。

Mandolinレバーを先に、続いてVibratoレバーを記します。

例 M. 2 Vib. 2

Brilliance, Chime,については2を参照してください。

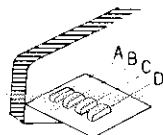
パーカッションレバー

- Lower I (略号 P.L. I)
- Lower II (略号 P.L. II)
- Pedal (略号 P.P.)
- Button I (略号 P.B. I)
- Button II (略号 P.B. II)

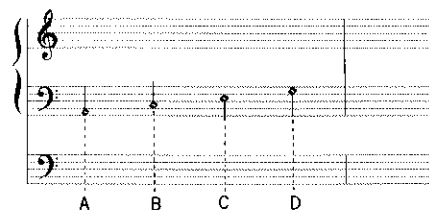
上記レバーはトーンレバーと同様、クリックストップの数字で記します。パーカッションレバーはMandolinと同じように使用するときのみ記入します。

例 P. B. II 2

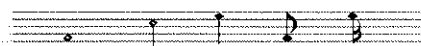
パーカッションボタンの記譜上の位置



- Aは下鍵盤の五線の第一間
- Bは下鍵盤の五線の第二間
- Cは下鍵盤の五線の第三間
- Dは下鍵盤の五線の第四間にヒシ形をかきます。



音価は普通の楽譜と全く同じです。



4: コントロールレバー及びつまみの指定

上鍵盤左の4つのレバーは、略号として矢印を用いて記入します。

- Reverb (略号 R.)
- Pedal Sustain (略号 P.S.)
- Manual Sustain (略号 M.S.)
- Manual Balance (略号 M.B.)

上鍵盤左の4つのレバーは略号として矢印を用いて記入します。

- R. P.S. M.S. M.B.
- ↑ · · ↗ · · ↗ · · ↑ ·

5: エフェクトタブレットの指定

下鍵盤右の8つのタブレット

- Manual Sustain (略号 S.)
- Upper Preset to Panel (略号 +Pan.)
- Vibrato (略号 Vib.)
- Upper 8' 4' Attack (略号 U. A.)
- Lower Voice (略号 L. V.)
- Upper Voice (略号 U. V.)
- Tremolo (略号 T.)
- Chorus (略号 C.)

以上の表示は、矢印を用い、ONのときは↓、OFFのときには↑とします。配列順序は、左からタブレッ

トの配列と同じですが、VibratoとUpper 8' 4' AttackとLower Voiceの間に-を入れます。

例 ↓↓↑↑-↑↑-↓↑↓↑

## 6: プリセット ボタンの指定

プリセットのボタン番号を記します。

例 ②

キャンセル ボタンはⓐで記します。

## 7: 曲頭におけるレバー、つまみ、タブレットの記譜

〔トーン・レバー表示法I に基づいた例〕

(Upper)

(Brill) 1-3002003-03-01-( ) M.2 Vib. 1

(Lower) 1-132-20 P.L. II 2

(Pedal) 1-20 A. 2 P.P 1

R. P.S. M.S. M.B.

↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑

↓↓↑↑-↑↑-↓↑↓↑

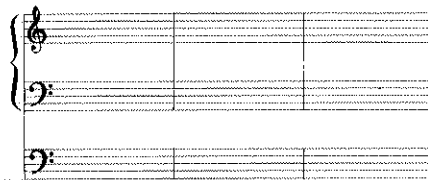


パーカッション レバーのLower I、Lower II、Buttonの指定は、下鍵盤の

右側に記入します。

〔トーンレバー表示法IIに基づいた例〕

(Upper)	Flute 16' 2	Vib. 2-2				
	Flute 8' 3	R.	P.S.	M.S.	M.B.	
	Flute 2 1/2' 2	↑	↑	↑	↑	
	Flute 2' 3					
(Lower)	Wood 16' 1	P.L. II 1	S.	ON		
	Wood 8' 3	Vib.	ON			
	Horn 8' 3	L.V.	ON			
(Pedal)	Bass 16' 2	T.	ON			
	Bass 8' 2	C.	ON			
		A.1				



表示法IIの場合、Brillianceの指定がある場合は、下鍵盤の音色の右側に記入します。

パーカッションレバーを同時に2つ、3つを使用する場合に指定順序は、左からLower I、Lower II、Button I、Button IIとします。Pedalは、ペダル鍵盤の音色の指定の右側に記入します。もし、Attakのある場合、その右側へ記入します。

## 8: 曲中におけるレバー、つまみ、タブレットの変更

〔表示法I〕によるトーンレバー

の変更の場合、はじめの指定に変わるレバーの数字にアンダーラインを引きます。

( ) 1-3002003-03-01-( )

〔表示法II〕で表示するものの変更については

+Flute 8' 1-3

-Clarinet 8' 3-0

のように、クリック ストップの数ははじめの数より増すときには+、減ずるときには-をレバーの前に記します。

この場合にも、はじめの指定と変わるレバーの数字の下にアンダーラインを引きます。

ChimeについてはON; OFFで指定します。

Ch.ON

Mandolin, Vibrato, Attackの変更は指定した数字の変更で表わします。ただし、Mandolin, Attackについては0にする時、M.3 A.2のように指定の上に横線を引きます。

Brillianceも同様に扱います。

パーカッション レバーの変更は指定した数字の変更で表わします。

上鍵盤左4つのレバー-Reverb, Pedal Sustain, Manual Sustain, Manual Balanceの変更は、変更するつまみだけを略号と矢印とで表わします。

P.S.



ただし、Manual Balance は次の様な略号を用いて示してもかまいません。

- B. .....Balance Upper  
(略号B.U.)
- B. .....Balance Natural  
(略号B.N.)
- B. .....Balance Lower  
(略号B.L.)

エフェクト タブレットの変更は[表示法 I] の場合、曲頭と同様、全部の指定を記し、変更になったタブレットの矢印の下にアンダーラインを引きます。

[表示法 II] の場合は変更のタブレット名を略号を用いON, OFFで記しします。

## 9 記譜位置

### ■ トーンレバー

[表示法 I]

### [表示法 II]

+Brass 8' 1-3  
Oboe 8' 3  
-String 8' 2-0

### ■ Mandolin, Vibrato, Brilliance, Attack

### ■ パーカッション レバー

### ■ Reverb, Pedal Sustain, Manual Sustain, Manual, Balance

### ■ エフェクトタブレット

[表示法 I]

↓↓↑↑↑↑↑↑↑↑

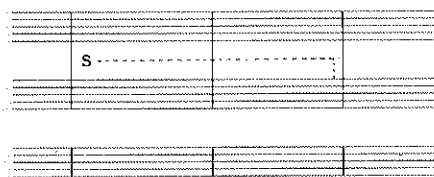
### [表示法 II]

## 10 ニーレバーを使ったエフェクトの指定

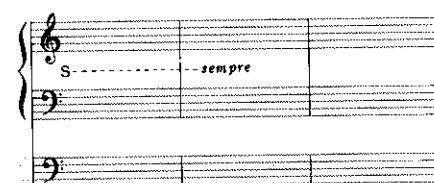
ニーレバーを使ってManual Sustain をかける場合は、上段と中段の中間にS…のように記し、切る位置は…:…: のように示します。

上段・中段とも同鍵盤の音の場合の切る位置は…:…: のように示します。

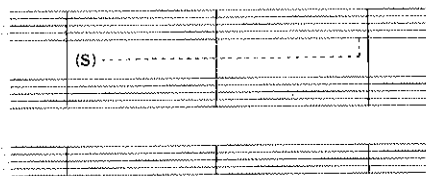
曲目の関係で、中段に鍵盤の音を上書いたり、上段に下鍵盤の音を書く場合は次のように示します



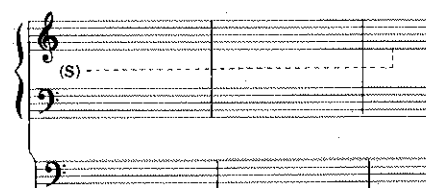
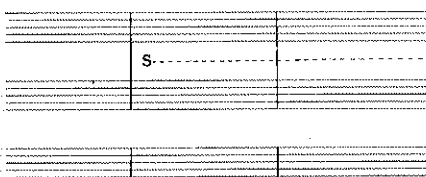
全曲を通して、または長い間Sustainをかけ続ける事は **Sempre** で記します。



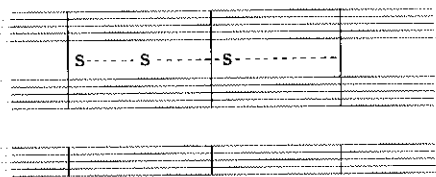
その場合、切る数小節前に (S)…… を記入します。



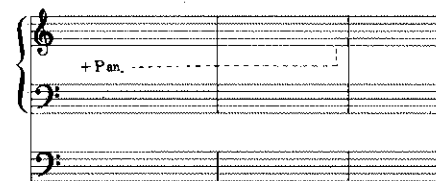
次の段まで続けるときは、次のように示します。



次の音へ入る瞬間に、今までかけていたSustainを一度切って、すぐ又かけ直す場合は次のように示します。

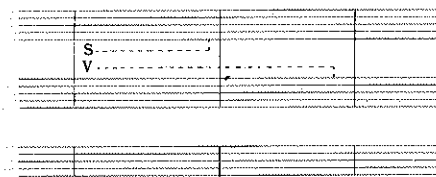


ニーレバーでUpper Paeset to Panelを使用するときは、使用するフレーズだけを +Pan. …………… で示します。



Vibratoの使用はON, OFFで示します。

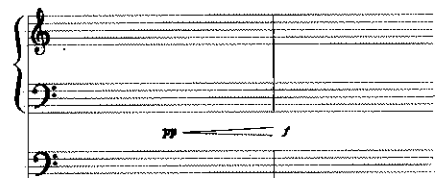
3つのエフェクト セレクターのうち2つ以上を同時に使用する場合は次のように示します。



## 11 発想記号

*pp nf dim*

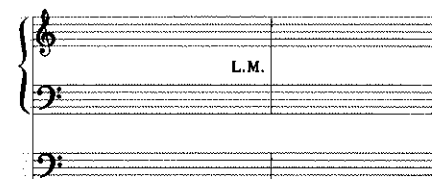
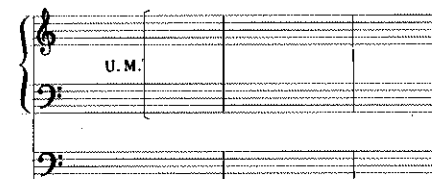
などの発想記号は、中段と下段の間に記入します。



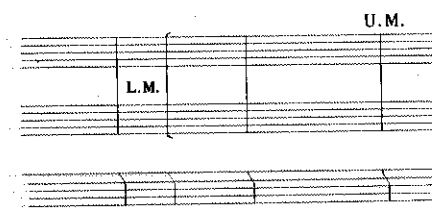
## 12：上鍵盤・下鍵盤と上段・中段との関係

原則として、上鍵盤の音を上段に、下鍵盤の音を中段に記入しますが、演奏法によって変わる場合には、次のように示します。

両手で上鍵盤をひく場合には下のように入力し、ふつうの演奏法にもどる場合には、中段に L. M. と記入します。



この逆の場合、すなわち、両手で下鍵盤をひく場合は、下のように入力します。



上鍵盤の音を中段に、下鍵盤の音を  
上段に記した方が、明らかに音楽的  
に理解しやすい場合には、次のよう  
に示します。

### 13：右手・左手と上鍵盤・下鍵盤 との関係

とくに指定のないときは、原則とし  
て、上鍵盤を右手で、下鍵盤を左手  
で演奏しますが、演奏法のごうで  
変わるときは、次のように示します。  
上鍵盤を左手で、下鍵盤を右手で演  
奏する場合は、下図のように記入し  
ます。

右手で上鍵盤をひきながら、部分的  
に、下鍵盤を同時にひく場合は、下  
図のように表示します。

### 14：グリサンドの指定

白鍵のグリサンドは直線で示します。

この場合、音は下図の様になります。

黒鍵の音を含むグリサンドは~~~~  
で示します。

この場合、音は下図の様になります。

2つ以上の音から2つ以上の音へ、  
掌を使わずに弾くグリサンドは、下  
図のように直線で示します。

この場合、音は下図の様になります。

掌を使って弾くグリサンドは~~~~  
で示します。

黒鍵のみのグリサンドは直線で示し  
「注・黒鍵のみ」と書きます。

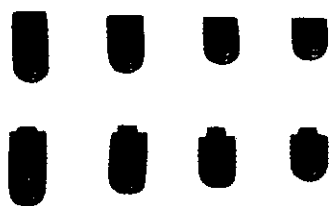
この場合、音は下図の様になります。

以下、上昇のグリサンドのみを説明  
しましたが、下降の場合も全く同様  
です。



# 附属品のごあんない

下記の附属品はエレクトーンの附属品として楽器店にて販売致しております。エレクトーン各機種に共通で  
ご使用いただけますのでご利用下さい。



レバーストッパー 200円



ヘッドホン 3,300円

日本楽器製造株式会社

- 本社・工場＝浜松市中沢町10番1号 / TEL. (61) 1111
- 東京支店＝東京都中央区銀座7-9-18パールビル内 / TEL. (572) 3111
- 銀座店＝東京都中央区銀座7-9-14 / TEL. (572) 3111
- 渋谷店＝東京都渋谷区大和田町52新大塚ビル / TEL. (463) 4221
- 池袋店＝東京都豊島区南池袋1丁目24-2 / TEL. (981) 5271-5
- 横浜店＝横浜市西区南幸町2-15-13 / TEL. (311) 1201
- 千葉店＝千葉市吾妻町2-10 松田屋ビル内 / TEL. (22) 7713-4
- 大阪支店＝吹田市大塚山田下2864 / TEL. (878) 5151
- 心齋橋店＝大阪市南区心齋橋筋2-39 / TEL. (211) 8331
- 梅田店＝大阪市北区梅田町1阪神百貨店5階 / TEL. (312) 4731-3
- 神戸店＝神戸市生田区元町通2丁目188 / TEL. (39) 3151
- 四国店＝香川県高松市丸龜町8-7 / TEL. (51) 7777
- 名古屋支店＝名古屋市中区錦1丁目18-28号 / TEL. (201) 5141-5
- 九州支店＝福岡市博多駅前2丁目11-4 / TEL. (43) 2151
- 福岡店＝福岡市天神町1-11-17福岡ビル内 / TEL. (76) 1061
- 小倉店＝北九州市小倉区大坂町20番地 / TEL. (53) 4331-5
- 北海道支店＝札幌市南四条東5丁目12豊ビル内 / TEL. (24) 9221-4
- 札幌店＝札幌市南三条西4-12狸小路角 / TEL. (24) 9221-4
- 仙台支店＝仙台市1番町2丁目6番5号 / TEL. (27) 8511
- 広島支店＝広島市紙屋町1丁目2番 / TEL. (43) 4511
- 浜松支店＝浜松市鍛冶町122 / TEL. (54) 4111
- 海外支店＝ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・シンガポール・フィリピン

●上記の本社・支店のほかに、全国1400の特約楽器店によるサービス・ネットワークがございます。お気軽にご利用ください。

●日本音楽著作権協会出認第432409号承認済